本書の見かた

本書ではお車の各装置や装備の正しい取り扱いかたと、快適ドライブ情報やお手入れのしかた、万一のときの応急処置などを記載しています。

◎ **お車を安全･快適にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。**

◎ **「警告」「注意」は安全のために特に重要です。よく読んでお守りください。**

- 本書の中で使用しているマークと意味は次のようになっています。

安全のために守っていただきたいこと。	
⚠ 警告	守らないと生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。
⚠ 注意	守らないと傷害または事故につながるおそれがあります。
お車のために守っていただきたいこと。	
アドバイス	守らないと車両破損につながるおそれや正規性能を確保できないことがあります。
お車を使ううえで知っておいていただきたいこと。	
知識	知っておくとお車やいろいろな装備を上手に使うことができ便利です。

- 参照して読んでいただきたいページなどを、➔マークで表示しています。
- 日産販売会社で取り付けられた装備（ディーラーオプション）については、その装備に付属の取扱説明書をお読みください。
- 点検･整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。
- ナビゲーションシステム付車は、別冊の取扱説明書をお読みください。
- その他、ご不明な点はカーライフアドバイザー（営業部員）にお申しつけください。

- 交通ルールやマナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護に配慮してください。
- 本書と別冊のメンテナンスノートはお車の中に保管してください。
- お車をゆずられるときは次に所有される方のために、本書をお車に付けておいてください。
- 車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

目次

イラスト目次 P.2

- 外観フロント .2
- 外観リヤ .3
- 車室内 .4
- 運転席まわり .5
- インストルメントパネル① .6
- インストルメントパネル② .7

運転をするときは P.9

- SRSエアバッグについて .10
- お子さまの安全のために .23
- 運転する前に .34
- 始動する .57
- 走行する .59

メーター P.99

- メーターの見かた .100
- 警告灯·表示灯 .104
- アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた .112

各部の操作 P.133

- ドアの施錠と解錠 .134
- 各部の開閉 .149
- ウインドーの開閉 .154
- エアコンの使いかた .161
- スイッチの操作 .175
- 室内装置 .185

トラブルがおきたときは P.201

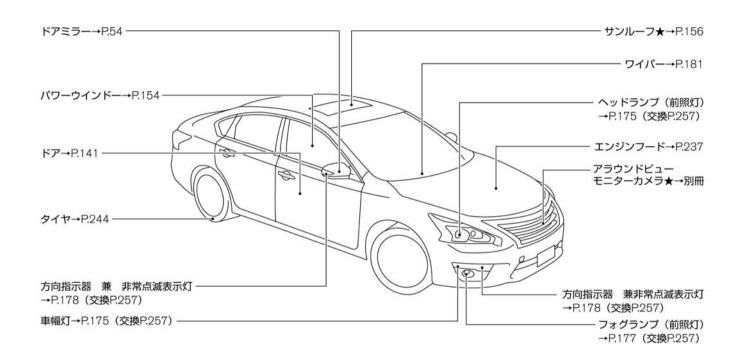
- タイヤのパンク .202
- ドア／トランクが開かない .212
- 始動しないとき .213
- バッテリーがあがったとき .214
- 各種警告機能について .217
- くもりが取れない .222
- オーバーヒートしたとき .224
- 動かないとき .226
- 故障したとき .232

メンテナンス P.235

- 点検·整備 .236
- 清掃·お手入れ .269
- サービスデータ .277

索引 P.285

外観フロント

車両前方から見た外観の名称と配置図です。

外観リヤ

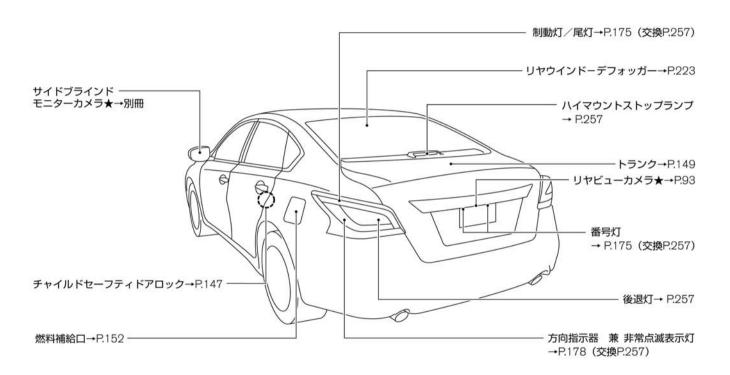
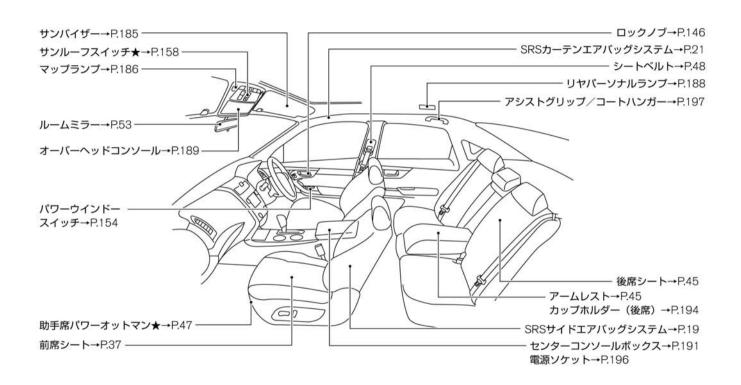
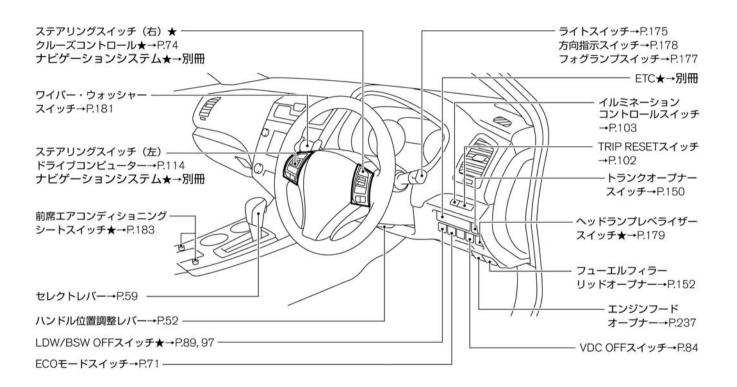
車両後方から見た外観の名称と配置図です。

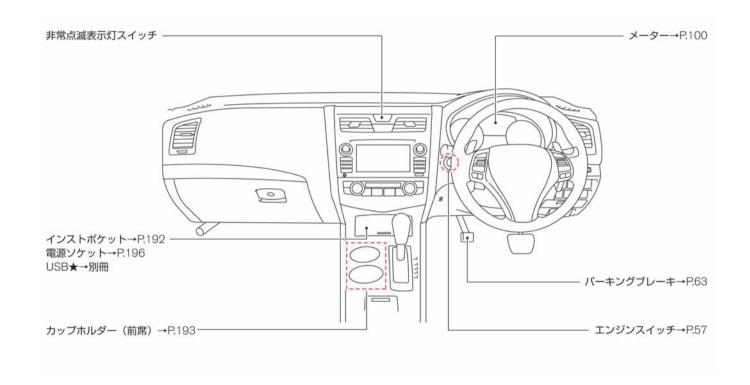
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車室内

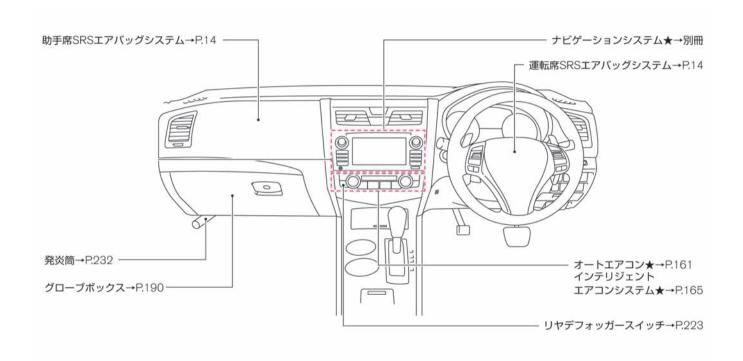
車室内の名称と配置図です。

運転席まわりの名称と配置図です。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

インストルメントパネル①

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。

インストルメントパネル②

インストルメントパネルまわりの名称と配置図です。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

SRSエアバッグについて

SRSエアバッグ P.10
運転席･助手席SRSエアバッグシステム P.14
運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム P.19
SRSカーテンエアバッグシステム P.21

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは P.23
チャイルドシート P.26
チャイルドシート適合表 P.30

運転する前に

運転するときに注意すること P.34
正しい運転姿勢について P.36
シート P.37
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト P.48
ハンドル P.52
ルームミラー P.53
ドアミラースイッチ P.54

始動する

エンジンスイッチ P.57

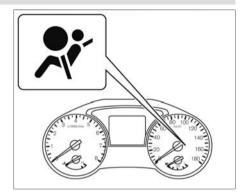
走行する

セレクトレバー P.59
パーキングブレーキ P.63
発進 P.64
走行 P.67
停車･駐車 P.69
ECOモード P.71
クルーズコントロール★ P.74
ABS（アンチロックブレーキシステム） P.81
VDC（ビークルダイナミクスコントロール） P.82
BSW（後側方車両検知警報）★ P.85
LDW（車線逸脱警報）★ P.94

SRSエアバッグ

SRS エアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。
シートベルトは必ず着用してください。

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、電源ポジションがONのときに作動可能です。
電源ポジションをONにしたあと、約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
SRSエアバッグは、正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならない場合には、必ずしも作動するとはかぎりません。

警告

- 電源ポジションをONにしてもSRSエアバッグ警告灯が点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRSとは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

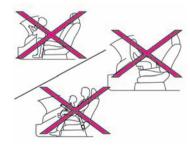
SRSエアバッグ

SRSエアバッグの注意事項

⚠ 警告

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、フロントシートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド部などのSRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  - SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
  - 電気テスターを使ってSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
  - エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
  ➔ チャイルドシート (P.26)

⚠ 警告

● チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

SRSエアバッグ

⚠ 注意

- SRSエアバッグは膨らんだあと高温になるため、30分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRSエアバッグは高温のガスにより高速で膨らむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグが膨らむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

運転席・助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席SRS エアバッグは、ハンドル部に格納されています。
助手席SRS エアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。
乗員がいなくても運転席と同時に作動します。

SRSエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- 車両前方左右、約30°以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき
- 深い穴や溝に落ち込んだとき
- ジャンプして地面にぶつけたとき

⚠ 注意

- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃で前面ガラスが割れることがあります。

知識

- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRSエアバッグが作動しないとき

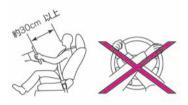
一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 横方向や後ろから衝突されたとき
- 横転、転覆したとき

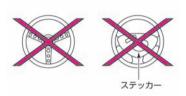
運転席・助手席SRSエアバッグシステムの注意事項

⚠ 警告

運転席SRSエアバッグシステム

- ハンドルから顔をできるだけ（約30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなどSRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。また、内がけでのハンドル操作はしないでください。

- 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRSエアバッグ格納部）にステッカーなどを貼らないでください。

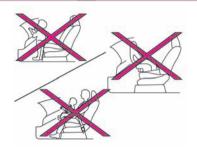
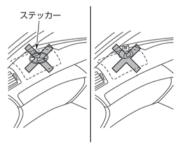
運転席･助手席SRSエアバッグシステム

⚠ 警告

- 前面ガラスにアクセサリーなどを付けないでください。

助手席SRSエアバッグシステム

- インストルメントパネル（SRSエアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。
- チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

⚠ 警告

● インストルメントパネル上面および前面にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。

運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSサイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）のSRSサイドエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 前席シートのSRSサイドエアバッグ格納部付近に傘やカバンなどを置かないでください。
- シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものをお使いください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRSサイドエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSサイドエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSサイドエアバッグが作動しないとき

一度、SRSサイドエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグシステム

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRSカーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- ドアにもたれるなど、SRSカーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。
- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などのSRSカーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けないでください。

SRSカーテンエアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRSカーテンエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。
衝突したものが変形したり移動したときや、衝突した物の形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

- 側面に斜め方向から衝突されたとき
- 側面にバイクが真横から衝突したとき
- エンジンルーム（トランクルーム）に衝突されたとき
- 横転、転覆したとき
- 斜め前方から衝突したとき
- 電柱などに衝突したとき

SRSカーテンエアバッグが作動しないとき

一度、SRSカーテンエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- 後ろから衝突されたとき

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまは後席に

- 助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。
  ➔ シートベルトのつけかた (P.48)
- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
  ➔ チャイルドシート (P.26)

チャイルドシートは後席に

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

ドア、ウインドーなどは大人が操作

- ドア、ウインドーなどの開閉は、お子さまには操作させないでください。開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドセーフティードアロック（➔P.147）やパワーウインドーロックスイッチ（➔P.154）を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓やサンルーフ★から手や顔を出さない

- お子さまが手や顔を出さないように注意してください。急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろしてください。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

チャイルドシートの固定機構を使ってチャイルドシートを固定することができます。

チャイルドシートの種類

乳児用チャイルドシート： ECE R44基準のグループ0、0+に相当します。
チャイルドシート： ECE R44基準のグループ0+、Ⅰに相当します。
ジュニアチャイルドシート： ECE R44基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。
- この車はECE R44の基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

⚠ 警告

- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。やむをえず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。

① エアーバッグ警告ラベル

⚠ 注意

- お子さまの年齢や体格にあった、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

知識

- ECE R44はチャイルドシートに関する国際法です。ECE R44の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。

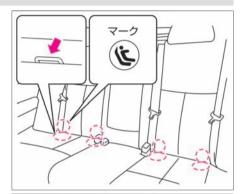
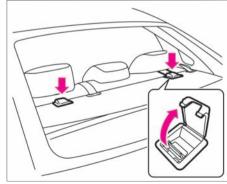
チャイルドシートの質量グループ

ECE　R44の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0＋	13kgまで
グループⅠ	9～18kgまで
グループⅡ	15～25kgまで
グループⅢ	22～36kgまで

アンカーの位置

後席シートの左右にはISO　FIX対応チャイルドシートを取り付けるためのアンカー（固定装置）が装備されています。

- ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マークの下側にあります。
- テザーアンカーは、リヤパーセルにあります。
- 取り付けかたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、
ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。
次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを確認してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

■ 選択の目安

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席	
		左右席	中央席
0 （10kgまで）	X	U	U
0＋ （13kgまで）	X	U	U
Ⅰ （9〜18kg）	L	U	U
Ⅱ （15〜25kg）	L	U	U
Ⅲ （22〜36kg）	L	U	U

U： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。
L： 次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。
X： チャイルドシートを取り付けることはできません。

注意

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■ 日産純正チャイルドシート

<table>
<tr><th>質量グループ</th><th>取り付け
向き</th><th colspan="2">商品名</th></tr>
<tr><td>Ⅰ
(9～18kgまで)</td><td>前向き</td><td>ISO FIX対応
チャイルド
セーフティシート
(E4 04443716)</td><td>チャイルド
セーフティシート
(E4 04443812)</td></tr>
<tr><td>Ⅱ
(15～25kgまで)</td><td>前向き</td><td colspan="2" rowspan="2">ジュニアセーフティシート
(E4 04443515)</td></tr>
<tr><td>Ⅲ
(22～36kgまで)</td><td>前向き</td></tr>
</table>

ISO FIX専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX位置（車両側）
			後席左右
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 （10kgまで）	E	ISO/R1	X
0＋ （13kgまで）	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
Ⅰ （9〜18kg）	D	ISO/R2	X
	C	ISO/R3	X
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/P2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
Ⅱ （15〜25kg）	-	（1）	X
Ⅲ （22〜36kg）	-	（1）	X

IUF： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。
IL： この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「日産純正 ISO FIX対応ベビーシート」に適合しています。
X： チャイルドシートを取り付けることはできません。
(1)： サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応チャイルドシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物が無いことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ISO FIX対応チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置まで上げてください。
- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前にECE R44の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

■ 日産純正ISO FIX対応チャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0^{+} (13kgまで)	E	ISO/R1	日産純正 ISO FIX対応 ベビーシート （E4 04443717）	後向き	準汎用

⚠ 注意

- 日産純正ISO　FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

各種注意事項について

⚠ 注意

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。
- ウインドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン本体、駆動系などこの車両の持っている性能を十分に引き出すためには、ならし運転が必要です。
  走行距離約1,600kmまでは適度な車速、エンジン回転数で運転してください。
- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流のエンジン調整や配線、市販の不適合品のマフラー取り付けなどを行わないでください。故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 日産が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- 次のような場合には日産販売会社にご相談ください。
  - 適切でない電装品や無線機などを取り付けないでください。電子機器部品に悪影響を及ぼしたり、誤った配線は故障や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、バッテリー端子に電装品やアース線などを直接つながないでください。バッテリーが上がる可能性があります。
  - ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
  - 排気音が大きくなったときは、排気管が腐食したり路面干渉などで損傷しているおそれがあるため、日産販売会社で点検を受けてください。排気管に穴が開いたまま走行を続けると、高温の排気ガスが漏れ、排気ガスが車内に侵入したり、火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

– 事故などでランプが破損したまま走行しないでください。内部に水などが入ると、発煙し火災につながるおそれがあります。

- 無用な空ぶかしをしたり、エンジンをかけたまま仮眠をしないでください。万一、セレクトレバーがP以外に入っていると、急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。 また、無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故やエンジン過熱による火災などにつながるおそれがあり危険です。
- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどの小物入れに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ライターの着火ボタンが押されてガスが噴出し、火災につながるおそれがあります。また、ライターを使用したあと、すぐに収納すると火災を起こすおそれがあります。
- 灰皿を使ったあとは、マッチやタバコの火が消えていることを確認し、ふたを必ず閉めてください。また、紙くずなど燃えやすいものは入れないでください。出火するおそれがあります。

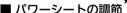
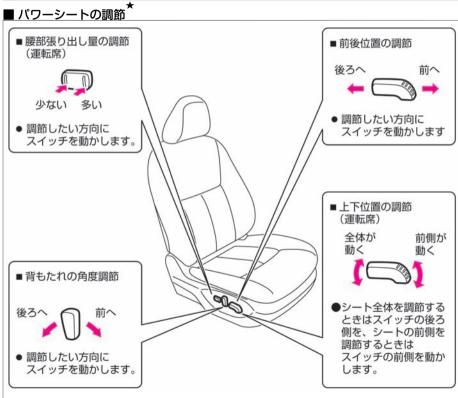
正しい運転姿勢について

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル、シート、ミラーを調節してください。

⚠ 警告

- シート、ハンドル、ミラーの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調節したあとは、確実に固定されていることを確認してください。シートやハンドルが固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前席シートの調節

■ パワーシートの調節★

■ 腰部張り出し量の調節
（運転席）

少ない　多い

● 調節したい方向に
スイッチを動かします。

■ 前後位置の調節

後ろへ　前へ

● 調節したい方向に
スイッチを動かします

■ 背もたれの角度調節

後ろへ　前へ

● 調節したい方向に
スイッチを動かします。

■ 上下位置の調節
（運転席）

全体が
動く

前側が
動く

●シート全体を調節するときはスイッチの後ろ側を、シートの前側を調節するときはスイッチの前側を動かします。

⚠ 警告

● 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

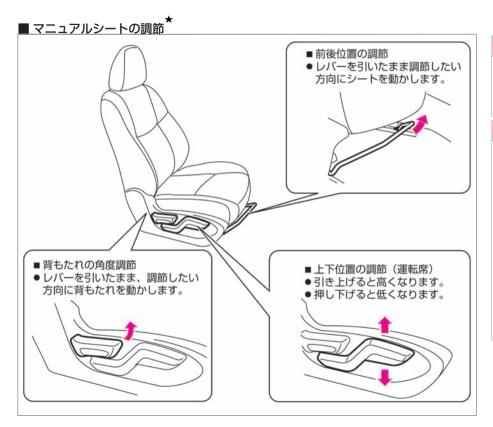
● 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
● 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体にあたり思わぬケガをするおそれがあります。
● 車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ マニュアルシートの調節★

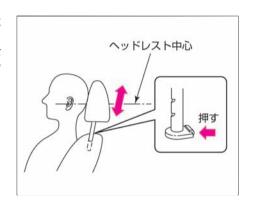
⚠ 警告

- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体にあたり思わぬケガをするおそれがあります。
- 車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

■ ヘッドレストの使いかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになるように調節します。

● 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げ、下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ ヘッドレストの脱着
- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

⚠ 警告

- ヘッドレストは外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

運転席オートドライビングポジションシート★

運転席オートドライビングポジションシートには、次の機能があります。

- シートの退避･復帰機能
- メモリー機能
- インテリジェントキー連動機能

知識

- 全ての機能は、セレクトレバーがPのときに作動します。
- エンジン始動時は作動が一時停止しますが、エンジン始動後に再開します。
- 次のいずれかの操作を行うと作動が停止します。
  - セレクトレバーをP以外にしたとき
    （シートの復帰機能は停止しません。）
  - シート、ドアミラーの調節スイッチを操作したとき
  - セットスイッチ、メモリースイッチのいずれかを押したとき
- バッテリーを外すと、記憶された設定が消去されます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ シートの退避･復帰機能

運転席シートが自動的に動き、乗り降りを楽にします。

退避機能

- 電源ポジションをOFFにして運転席ドアを開けると、運転席シートが乗り降りしやすい位置に動きます。

復帰機能

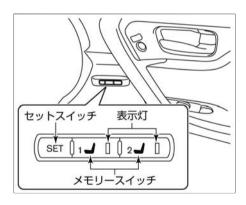
- 電源ポジションをACCにすると、運転席シートが退避する前の位置に戻ります。

■ 設定の切り替え

シートの退避･復帰機能の作動･非作動を切り替えることができます。

① 電源ポジションをLOCKにします。
② セットスイッチを10秒以上押し続け、作動と非作動を切り替えます。

表示灯の点滅回数	設定状態
2回	作動
1回	非作動

知識

- 退避した位置でシートを調節すると、復帰機能は作動しません。
- バッテリーを外したときは、電源ポジションをACCからLOCKに切り替え、ドアを2回開閉して作動状態にしてください。

■ メモリー機能

2名分の運転ポジション（シート、ドアミラー鏡面角度）をスイッチに記憶させ、呼び出すことができます。

記憶のしかた

① セレクトレバーを P にします。
② 電源ポジションをONにします。
③ 正しい運転姿勢がとれる運転席ポジションに調節します。
➔ 前席シートの調節 (P.37)
➔ ドアミラースイッチ (P.54)
④ セットスイッチを押し、押してから5秒以内に記憶させたい方のメモリースイッチを1秒以上押します。
記憶させたスイッチの表示灯が約5秒間点灯します。

呼び出しかた

① セレクトレバーを P にします。
② 電源ポジションをONにします。
③ 記憶を呼び出したいメモリースイッチを1秒以上押します。
呼び出し中は、スイッチの表示灯が点滅し、完了すると約5秒間点灯します。

知識

- セットスイッチを押したとき、記憶されていると約5秒間、されていないと約0.5秒間、表示灯が点灯します。
- 電源ポジションがLOCKでも、ドア解錠後に運転席ドアを開けてから約45秒間は呼び出すことができます。

■ インテリジェントキー連動機能

メモリースイッチに記憶させた運転席ポジションをインテリジェントキーに登録すると、運転席ドアを解錠したときに運転ポジションが自動的に呼び出されます。

登録のしかた

① セレクトレバーを P にします。
② 電源ポジションをLOCKにします。
③ セットスイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点灯）
④ 表示灯点灯中に記憶させたい方のメモリースイッチを押しながら、インテリジェントキーのドア解錠スイッチを押します。
（スイッチの表示灯が点滅）

呼び出しかた

登録したインテリジェントキーを携帯し、運転席ドアハンドル･リクエストスイッチまたはリモートコントロールエントリー機能で解錠します。

● 記憶させた運転ポジションが自動的に呼び出されます。

後席シートの調節

■ ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
- 脱着のしかたは、前席シート（➔P.37）と同じです。

⚠ 注意

- ヘッドレストはロック位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

■ リヤセンターアームレストの使いかた

- アームレストを前に倒して使います。
- 格納するときは引き上げます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

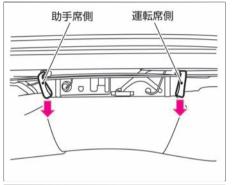
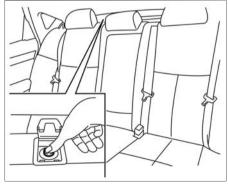
■ 背もたれの倒しかた

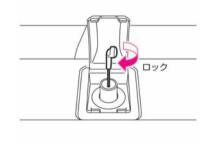
ストラップまたはボタン操作で後席シートを折りたたみ、荷室のスペースを広げることができます。

トランクからの倒しかた

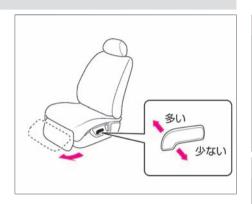
- ストラップを引き、背もたれを倒します。
- 左右別々に倒すことができます。

車内からの倒しかた（運転席側のみ）

- カバーを開けます。
- ボタンを押し、背もたれを倒します。

知識

- 車内のボタンはメカニカルキーでロックできます。ロックしておくと、車上荒らしなどの被害にあったとき、トランク内へ容易に到達できなくなるため、被害の軽減が期待できます。

助手席パワーオットマン機構★

シート下のオットマン（ふくらはぎ部）を調節することで、楽な姿勢を取ることができます。また、足の疲労も軽減することができます。

● 助手席を最後方へ動かし、スイッチの前側を上下に押して調節します。
● 使用後は、格納位置に戻します。

⚠ 注意

● シート位置が前方に調節されたままオットマンを前方に調節すると、足を挟まれるおそれがあります。
● 乗降時および使用後はシート下に格納してください。格納していないと、オットマンにつまづいて転倒するなど、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

● オットマンの上には乗らないでください。破損するおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ELR（緊急固定）付3点式シートベルト

通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、
ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

シートベルトのつけかた

1	タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。	
2	ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。	
3	肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。（前席のみ） ● ノブを引きながらアンカー部を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。 ● 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。	
4	外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。	

⚠ 警告

● 肩ベルトのアンカー位置は確実に肩に掛かるように調節してください。また、アンカーは確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

● ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト

- 正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。
- 運転席･助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。
➔ SRSエアバッグ (P.10)
- 運転席および助手席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引き込み、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 警告

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

- 電源ポジションをON後約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

アドバイス

- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。
- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

シートベルトの注意事項

走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。
使用方法、警告に従って正しく着用してください。

⚠ 警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは以下のことを必ずお守りください。
  - 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
  - ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。
  - ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
  - 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。
  - 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
  - シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
- シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。

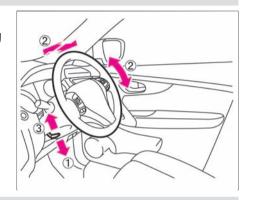
⚠ 警告

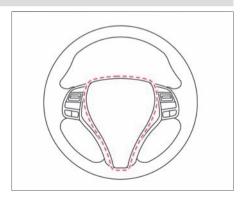
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
  ➔ チャイルドシート (P.26)
- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
- シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

ハンドル位置の調節

① レバーを押し下げます。
② ハンドルを前後･上下に動かし、適切な位置で止めます。
③ レバーを引き上げ固定します。

ホーンの使いかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

⚠ 警告

- ハンドルの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると、前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは、確実に固定されたことを確認してください。ハンドルが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

手動防眩式ルームミラー

ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。
夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。
昼間など通常走行時は防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。

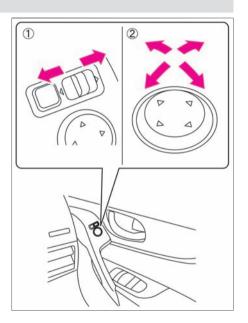
警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアミラースイッチ

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。
電源ポジションがACCまたはONのときに操作できます。

角度の調節

① 左右切り替えスイッチを調整する側に動かします。
② 角度調整スイッチを前後･左右に押して、後方が十分確認できる位置に調節します。

警告

- ドアミラーの調節は走行前に行ってください。走行中の調節は前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

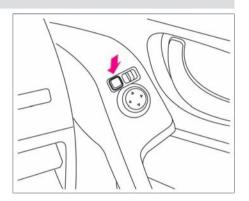
- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

知識

ヒーター付ドアミラー

- 電源ポジションがONのとき、➔ リヤデフォッガースイッチ (P.223)を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

格納のしかた

- スイッチを押すと自動的に格納されます。
- 元に戻すときは、スイッチをもう一度押します。

⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れないでください。手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- 手動で開閉すると走行中ミラーが前方または後方に倒れるおそれがあります。手動で開閉したあとは、走行前に開閉スイッチで開閉操作を行ってください。

知識

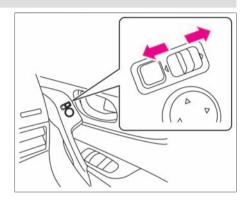
- 開閉スイッチ操作を連続して行うと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉した場合、開閉スイッチの位置により、電源ポジションをONまたはACCにしたときにミラーが動き出すことがあります。

リバース連動下向きドアミラー★

セレクトレバーをRにすると(後退時)、左右のドアミラーの角度が後輪の外側付近を映すように作動します。
左右切り替えスイッチを左右どちらかにすると作動し、中立にあると作動が停止します。

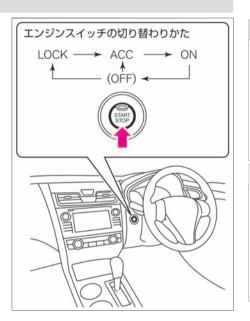
① 電源ポジションをONにし、左右切り替えスイッチを左右どちらかに動かします。
② セレクトレバーをRにすると、ドアミラーが下向きに作動します。

セレクトレバーをR以外にするか、左右切り替えスイッチを中立位置にすると元の角度に戻ります。

知識

- 電源ポジションをON以外にしてもドアミラーは元の角度に戻ります。
- 使用している鏡面角度によっては、リバース時に鏡面が作動範囲まで動いたあとも動こうとしますが異常ではありません。

各電源ポジションの働き

インテリジェントキーを携帯しているとき、ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと電源ポジションが切り替わります。

電源ポジション	働き
LOCK	ステアリングロックが作動する位置
ACC	オーディオ、ドアミラーなどが使える位置
ON	すべての電装品が使える位置
OFF	電源が切れる位置

アドバイス

- 次の条件がそろった状態で約30分経過すると自動的に電源ポジションがOFFになります。
  - 電源ポジションがACCまたはONのとき
  - セレクトレバーがPのとき
  - 非常点滅表示灯および方向指示器が点滅していないとき

知識

- ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動します。
  ➔ 始動のしかた (P.64)
- 電源ポジションがOFFのとき、いずれかのドアを開けるか、または閉めると電源ポジションがLOCKに切り替わります

エンジンの非常停止のしかた

緊急時など、走行中にエンジンを強制的に停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- エンジンスイッチをすばやく3回押す
- エンジンスイッチを2秒以上押し続ける

⚠ 警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行ってください。エンジンを停止するとブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

エンジンイモビライザー（盗難防止装置）

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、インテリジェントキーに送信機を内蔵し、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

- エンジンイモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーター（➔P.110）が点滅します。

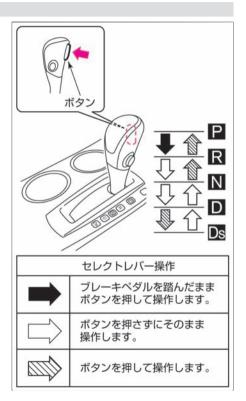
アドバイス

- 電源ポジションをONにしたときにセキュリティーインジケーターが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

- インテリジェントキーに登録された信号は、インテリジェントキーごとに異なります。

セレクトレバーの操作

電源ポジションがONのとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。

⚠ 警告

- 次のような操作は、トランスミッションを破損し、思わぬ事故につながるおそれがありますので、絶対にしないでください。
  - 車が完全に停止する前にPに入れる
  - 車を前進させているときにRに入れる
  - 車を後退させているときにD、Dsに入れる

アドバイス

- ⇨の操作は、ボタンを押さないで操作する習慣をつけてください。ボタンを押して操作すると、意に反してP、Rに入れてしまうおそれがあります。
- Pから操作するとき、ボタンを押したままブレーキペダルを踏むと、セレクトレバーを動かせないことがあります。ボタンは、ブレーキペダルを踏んでから押してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- セレクトレバーを R に切り替えるとブザーが鳴ります。

各シフトポジションの働き

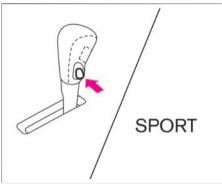
シフトポジション	役割
P	**駐車およびエンジンを始動するときの位置** 電源ポジションをOFFまたはLOCKに切り替えることができます。 （P以外では電源ポジションをLOCKにできません。）
R	**後退するときの位置** 車内でブザーが鳴り運転者に知らせます。 （車外の人に注意するものではありません）
N	**動力が伝わらない状態の位置** （Nでも停車中であればエンジンを始動できますが、安全のためPで始動してください。）
D	**通常走行するときの位置** 速度に応じて無段階に自動変速します。
Ds	**スポーティーな走行をするときや、登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行をするときの位置** 速度に応じて無段階に自動変速します。 ブレーキペダルを踏んで減速しているときや、カーブを走行しているときにエンジン回転数を維持することで、立ち上がりのときに力強く加速します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

スポーツモードスイッチの使いかた

- セレクトレバーが D または Ds のとき使えます。
- 通常走行するときはスイッチを押してメーター内の表示灯を消灯させます。
（スポーツモードOFF状態）
- スポーティーな走行をするときや、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけたいときはスイッチを押してメーター内の表示灯を点灯させます。
（スポーツモードON状態）

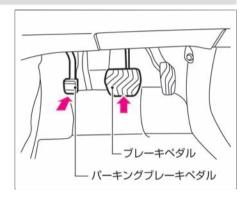
スポーツモード（メーター内表示灯）	働き
ON（点灯）	登坂路走行、パワフル走行など走りを重視した走行や、下り坂で軽いエンジンブレーキをかけることができます。
OFF（消灯）	燃費性能など、経済性を重視した走行ができます。

知識

- セレクトレバーを D 、Ds 以外にすると自動的にスポーツモードがOFFになります。
- スポーツモードではエンジンが高出力を発生する回転域を使用したギヤ比が自動的に選択されます。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけると後輪が固定されます。

パーキングブレーキのかけかた

- パーキングブレーキをかけるときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。

警告

- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけたあとにパーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

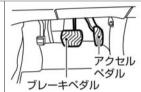
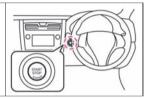
パーキングブレーキの解除

- 解除するときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

発進

インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、キーを取り出すことなく始動できます。
インテリジェントキーは、必ず運転者が携帯してください。

始動のしかた

1	アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢（➔P.36）がとれるようにハンドル、シート位置を調節します。	
2	ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、エンジンスイッチを1回押します。	

⚠ 警告

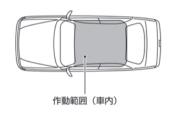
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

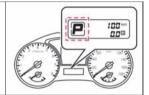
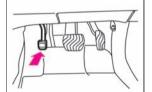
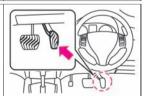
⚠ 注意

- 始動するときは、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- インテリジェントキーによるエンジン始動の作動範囲は車両室内です。（トランク内は除きます。）

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

発進のしかた

1	ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを動かします。 前進するときは**D**、または**Ds**に入れます。 後退するときは**R**に入れます。	
2	シフトポジションが切り替わったことを目で確認します。	
3	パーキングブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを解除します。	
4	ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。	

⚠ 警告

- 発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- セレクトレバーが**P**、**N**以外にあると、クリープ現象で車が動き出すので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

走行のしかた

- セレクトレバーをDまたはDsにしたまま走行します。
- アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
  アクセルペダルの踏みかげんと走行速度や走行状況などにより、適切なギヤに自動変速されます。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。
  キックダウンし急加速します。
- 下り坂では、エンジンブレーキを併用して走行します。セレクトレバーがDまたはDsでも、アクセルペダルを戻すと自動的にエンジンブレーキが得られます。
  強いエンジンブレーキが必要な勾配のきつい下り坂ではスポーツモードスイッチをONにすると、さらにエンジンブレーキが得られます。

⚠ 警告

- セレクトレバーをDにしたまま下り坂を走行すると、エンジンブレーキの効きが弱く、スピードが出すぎることがあります。このようなときは、フットブレーキだけを使い続けると、フットブレーキに負担がかかり、過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。必ずエンジンブレーキを併用してください。
- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキは効かせないでください。タイヤがスリップするおそれがあり危険です。

⚠ 注意

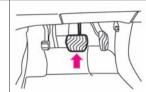
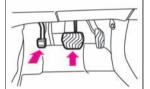
- 走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキが全く効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスアクスルが故障する原因となります。
- 次のような場合は、CVT保護のためにエンジン出力を抑制することがあります。
  - エンジン回転数が急激に上がったとき。
  - 滑りやすい路面を走行したとき。

⚠ 注意

– 動力測定器で動力測定したとき。

- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。
- 上り坂でセレクトレバーを D または Ds のまま故意に車両を後退させたり、下り坂で R のまま故意に車両を前進させたりしないでください。事故につながるおそれがあります。
- 冠水路など深い水たまりは無理に走行しないでください。エンジン破損や車両故障につながるおそれがあります。

停車・駐車のしかた

1	停車するときは、セレクトレバーはDまたはDsのままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。	
2	そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。	
3	セレクトレバーをPに入れ、目で確認します。 セレクトレバーをPに入れると駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。	
4	エンジンスイッチを1回押します。 電源ポジションがOFFになり、エンジンが停止します。	

⚠ 警告

- 停車中の空ぶかしはしないでください。万一、セレクトレバーがP、N以外にあると急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後の再発進は、セレクトレバーの位置を目で確認してください。

⚠ 注意

- 枯れ草、紙、木材、油など燃えやすい物の上や近くには駐・停車しないでください。排気管や排気ガスは高温になるため着火するおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずセレクトレバーをPに入れ、エンジンを停止してください。エンジンがかかったままで、セレクトレバーがP、N以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込むと急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 長期間車両を駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながる可能性があります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

アドバイス

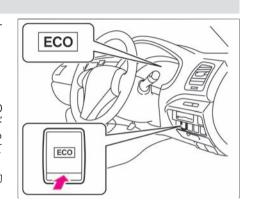
- 上り坂で停車するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ECOモード

ECOモードは、エンジンとCVTの作動を自動制御して、急加速を抑えることで燃費の向上をサポートするシステムです。

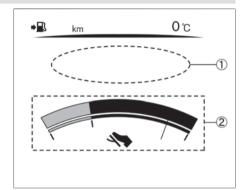
ECOモードについて

ECOモードを作動させるときは、ECOモードスイッチを押します。
（ECOモードインジケーターが点灯）
ECOモードスイッチをもう一度押すと、ECOモードは解除されます。
（ECOモードインジケーターが消灯）

- アクセルペダルを踏んでいるときにECOモードスイッチを押しても、ECOモードは解除できません。アクセルペダルから足を離し、ECOモードスイッチを押してください。
- システムに異常が発生したときは、自動的にECOモードが解除されます。
- 次のような場合は、ECOモードを解除してください。
  - 乗車人数や荷物量が多いとき
  - 急な上り坂を走行するとき

画面表示について

ECOモードがONのとき表示します。

① エコインジケーター
エコレベルが増えるほどランプが大きくなります。

② エコペダルガイド
エコドライブをするほどゲージが右側に進みます。

知識

- 「設定」⇒「エコモード設定」で画面表示の項目を切り替えることができます。
詳しくは、ドライブコンピューター（➔P.114）をお読みください。

エコドライブレポート

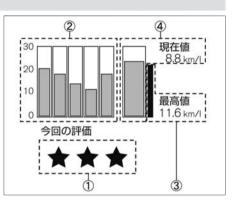
電源ポジションをOFFにするとエコドライブレポート画面を表示します。
エコ運転評価などの結果表示は、ECOモードで約10分以上走行したときに表示します。

① エコ運転評価
エコドライブするほど★が増えます。

② 履歴
過去5回分の平均燃費を表示します。

③ Best燃費
過去のBest燃費を表示します。

④ 今回の平均燃費
今回の平均燃費を表示します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

クルーズコントロール★

クルーズコントロールをセットするとアクセルペダルを踏まなくても、一定の速度で走行することができます。
約40～100km/hの間で任意の速度にセットできます。

クルーズコントロールについて

⚠ 注意

- 車間制御は行わないため、ブレーキ操作制御や警報は行われません。
  先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転に心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがあるため使わないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    （交通状況にあった速度で走行できないため、事故につながるおそれがあります）
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    （タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります）
  - 急な下り坂
    （急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。）

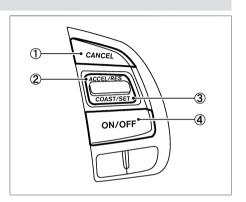
ステアリングスイッチ

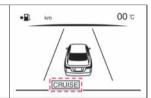
① キャンセルスイッチ
クルーズコントロールの解除ができます。

② リジューム/アクセラレートスイッチ（上押し）
クルーズコントロールを解除後、解除前の設定車速に再びセットすることができます。
設定車速を上げることができます。

③ セット/コーストスイッチ（下押し）
クルーズコントロールのセットができます。
設定車速を下げることができます。

④ メインスイッチ
クルーズコントロールのON／OFFができます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

セットのしかた

1	メインスイッチを押し、メーター内のディスプレイにクルーズ表示灯が点灯したことを目で確認します。	
2	設定したい車速まで加速または減速し、セット/コーストスイッチを押します。 ● スイッチを押したときの車速が設定車速になり、メーター内のディスプレイに「SET」と表示されます。	

⚠ 注意

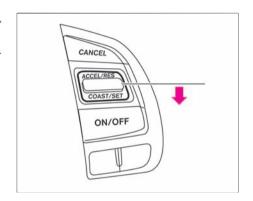
● クルーズコントロールを使わないときは、メインスイッチをOFFにしてください。間違ってステアリングスイッチを押すと、クルーズコントロールがセットされ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

設定車速の変えかた

定速走行中、次の操作で設定車速を変更します。

■ ペダルで変えるとき

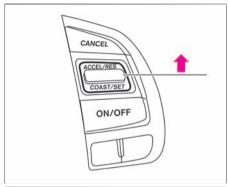
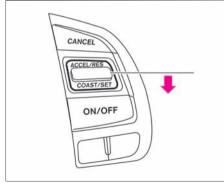
① アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み、速度を変えます。
② 希望の速度になったら、セット/コーストスイッチを押します。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ ステアリングスイッチで変えるとき

設定車速を上げたいとき

① リジューム/アクセラレートスイッチを押し続けると加速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

設定車速を下げたいとき

① セット/コーストスイッチを押し続けると減速します。
② 希望の速度になったら、手を離します。

■ 一時的に加速、減速をしたいとき

加速したいとき

- アクセルペダルを踏むと、加速します。

減速したいとき

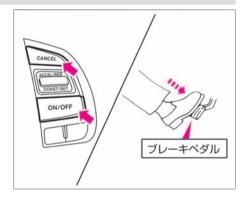
- ブレーキペダルを踏むと、減速（制御を解除）します。

■ もう一度定速走行に戻したいとき

解除前の設定車速で再びセットしたいときは、リジューム/アクセラレートスイッチを押します。
（車速が約40km/h～100km/hのとき戻せます。）

解除のしかた

● 次の操作でクルーズコントロール機能が解除されます。
- キャンセルスイッチを押す
- メインスイッチを押す
- ブレーキペダルを踏む

● 次の場合は、クルーズコントロールが自動的に解除されます。
- 車速が30km/h以下になったとき
- 設定車速より約13km/h以上車速が低下したとき
- VDCが作動したとき
- タイヤが空転したとき
- セレクトレバーを N に入れたとき
- クルーズコントロールシステムに異常があるとき

知識

● キャンセルスイッチで解除したときやブレーキペダルをふんで解除したときは、セット待機状態になります。

● クルーズコントロールシステムに異常があると、メーター内のディスプレイにあるクルーズコントロール表示が点滅します。
➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた (P.112)

ABS（アンチロックブレーキシステム）

ABSとは急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、
車両の安定性を向上させると共にハンドル操作による障害物回避をしやすくするシステムです。

ABSについて

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABSが作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これはABSの正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- 電源ポジションをONにしたときや、始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停止させるため、ABSは低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約10km/h以下では作動しません。

警告

- ABSはあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABSの付いていない車と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早め早めの操作で安全運転をしてください。
- ABSはブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABSの付いていない車より制動距離が長くなることがあります。このような道を走行するときは、特に速度を控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
- ABSは各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを4輪に装着してください。指定サイズ以外ではABSが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

VDCは横滑りや尻振りを起こしそうになると横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDCについて

- VDCの作動と表示灯
  - VDCが実際に作動しているときは、メーター内の警告灯 が点滅します。
  - VDCシステム内のトラクションコントロール機能のみが作動しているときも 警告灯 が点滅します。
  - 警告灯 が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- VDCには「ブレーキLSD」機能があります。これは滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保するLSD（リミテッドスリップデフ）機能です。
- VDC作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

⚠ 注意

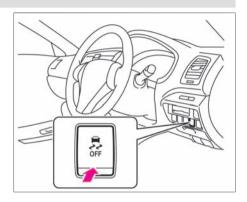
- この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDCの作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では特にスピードを落とし安全運転に心がけてください。
- 次のときはVDC警告灯が点灯し、VDCが正常に作動しないことがあります。
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
  - サスペンション、タイヤ、ブレーキなどが著しく摩耗および劣化した状態で走行したとき
- 次のような状況では、VDC警告灯が点灯することがあります。この場合は一度電源ポジションをOFFにし、再度エンジンを始動すると消灯します。
  - 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
  - 極端に傾いた特殊な路面（サーキット路に見られるバンクなど）を走行したとき
- VDC付車でも雪道などでは冬用タイ

注意

ヤやタイヤチェーンを装着してください。

VDC OFFスイッチの使いかた

VDCの作動をやめたいときに使います。

- VDC　OFFスイッチを押すと、VDCの働きを停止します。
（メーター内の表示灯 が点灯）
- もう一度スイッチを押すか、エンジンをかけ直すとVDCは作動を回復し、メーター内の表示灯が消灯します。

アドバイス

- ぬかるみや雪道から脱出するときなどは、スリップ状態を感知し、アクセルペダルを踏み込んでも出力が上がらないことがあります。回転数を上げたいときはVDC　OFFスイッチを押してシステムをOFFにしてください。
- VDC　OFFスイッチを押すと、ABS機能およびブレーキLSD機能を除くVDCのすべての機能が停止します。

知識

- VDCが作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- 電源ポジションをONにしたときや、エンジン始動後最初の発進時に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

BSW（後側方車両検知警報）★

車線変更をするとき、隣車線に車両がいる場合には警報によって運転者に注意を促します。

システムの作動

● BSW（後側方車両検知警報)は車速約30km/h以上で作動します。

● 車両後部に設置されたリヤビューカメラにより隣車線の車両を検知すると、検知した側のドアミラー付近にある表示灯が点灯します。

● 隣車線の車両を検知しているときに、検知している側に方向指示器を作動させると、警報音が鳴るとともにドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

⚠ 警告

● BSW（後側方車両検知警報)は、ドアミラーによる周囲の検知を代わりに行ったり、車両や障害物との接触を防ぐ機能ではありません。車線変更を行うときは、 機能に頼った確認をせず、必ずドアミラーおよびルームミラーで側方および後方の安全を確認してください。

知識

● ドアミラー付近の表示灯は電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。

● ドアミラー付近の表示灯の明るさは車両周囲の明るさによって自動的に切り替わります。

● 方向指示器が作動しているときに、リアビューカメラにより隣車線の車両を検知した場合には、表示灯は点滅しますが音は鳴りま せん。

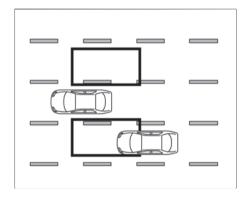
● メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、BSW（後側方車両検知警報)の作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。
詳しくは、ドライブコンピューター

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

BSW（後側方車両検知警報）★

知識
（➔P.114）をお読みください。

■ 検知範囲について

- 自車両の左右にある範囲内に車両の前端部があるとき、車両を検知します。
- 検知範囲は、自車両のドアミラーからリヤバンパー後方に約3m、車両の側面から横方向に約3mです。

BSW（後側方車両検知警報）について

⚠ 注意

- リヤビューカメラは次のような障害物は検知しません。
  - 歩行者、自転車、動物など
  - 対向車
- 次のような車両は、正確に検知できず、システムが正しく作動しないおそれがあります。
  - 背の低い車両や、オートバイなどの幅の狭い車両
  - 後方から速い速度で接近してくる車両
  - 自車両により速い速度で追い越される車両
  - 合流や車線変更で自車両の横にほぼ同じ速度で移動してきた車両
- 隣の車線の車両がトレーラーなど車高が高くロングホイールベースの車両は、システムが正しく検知できないことがあります。
- 次のような状況では、隣車線の車両を検知できないことがあります。
  - 強い光（太陽光など）を受けているとき
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
  - 車線の幅が極端に広い道路を運転しているとき
- 車線の幅が極端に狭い道路を運転する場合、２つ隣の車線にいる車両を検知してしまうことがあります。
- リヤビューカメラは静止している障害物を検知しないよう設計されていますが状況によっては、ガードレール、壁、植物、駐車された車両などを検知してしまうことがあります。
- 道路が濡れている場合など、道路に反射した周囲の車両の像など検知範囲にいない車両を検知してしまうことがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

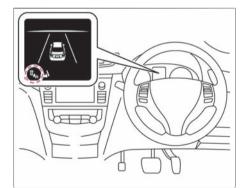
⚠ 注意

- BSW（後側方車両検知警報）付車のリヤビューカメラは、レンズを自動的に洗浄する機能がありますが、カメラのレンズが著しく汚れている場合などでは、完全に汚れをとることができず、隣車線の車両を検知しないことがあります。
- レンズを自動的に洗浄する機能は、ウォッシャー液を使用しています。ウォッシャースイッチを使わなくても、自動的に洗浄を行うため、メーター内のディスプレイに警告表示がでたときは、すみやかにウォッシャー液を補給してください。
  警告表示がでているときはBSWが作動しません。
  ➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイ (P.103)➔ ウォッシャー液の補給 (P.240)
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

ON･OFFのしかた

■ メーターでのON･OFFの設定

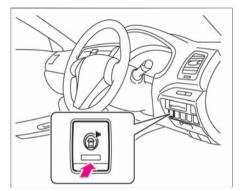
- メーター内のディスプレイで「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「車線変更支援」を選択すると、BSW（後側方車両検知警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。➔ ドライブコンピューター (P.114)
  設定の詳細については、運転支援システム（➔ 設定 (P.119)）をお読みください。
- 設定をONにすると、メーター内のディスプレイにあるBSW（後側方車両検知警報）表示が点灯します。

知識

- 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。
- 表示灯の明るさを3段階に調節することができます。
  ➔ 設定 (P.119)

■ スイッチでのON･OFFの設定

● メーターでBSW（後側方車両検知警報）機能をONに設定しているとき、LDW/BSW OFFスイッチでON･OFFを切り替えることができます。

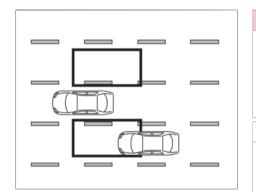
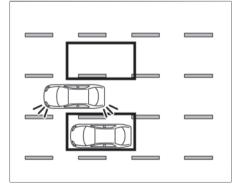
スイッチの表示灯	ON･OFF状態
点灯	ON
消灯	OFF

知識

● エンジンを再始動するとONになります。
● スイッチをOFFにするとLDW（車線逸脱警報）もOFFになります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

作動するとき･しないとき

■ 後方から車両が接近してくるとき

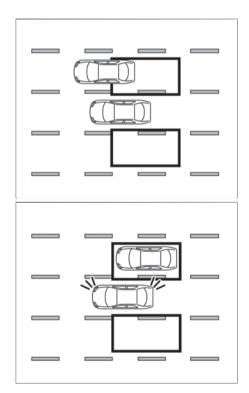
- 後方から車両が接近してくる場合、その車両が検知範囲内に入るとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

注意

- 自車両より極端に速い速度で接近してくる車両は検知できないことがあります。
  車線変更を行うときは、必ずドアミラーおよびルームミラーを使用して周囲の安全を確認してください。

知識

- 方向指示器を作動した後に、検知範囲に車両が入ってきたときは、表示灯は点滅しますが警報音は鳴りません。

■ 他の車両を追い越すとき

- 他の車両を追い越すとき、追い越される車両が検知範囲内に3秒以上とどまるとドアミラー付近にある表示灯が点灯します。
- 車両を検知し、表示灯が点灯しているときに、検知している側の方向指示器を作動させると警報音が鳴るとともに、ドアミラー付近にある表示灯が点滅します。

知識

- 速度の遅い車両を素早く追い越したときはシステムが検知しません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

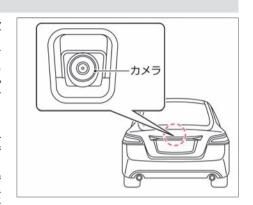
- 次の場合、メーター内のBSW（後側方車両検知警報）表示が点滅し、一時的にシステムが停止します。
  - トランクが開いた状態で走行したとき
  - カメラに付着した汚れ、雨、雪、氷などをレンズを洗浄する機能により取り除くことができないとき（メーター内のディスプレイに警告が表示されます）
    ➔ ドライブインジケーター (P.124)
- システムに異常があると、メーター内のBSW（後側方車両検知警報)表示がオレンジ色に点灯するとともに、メーター内のディスプレイに警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  ➔ ドライブインジケーター (P.124)

アドバイス

- カメラが汚れているときは、柔らかい布で拭いてください。
  ➔ 洗車のしかた (P.269)
- 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

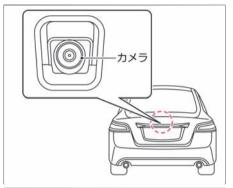
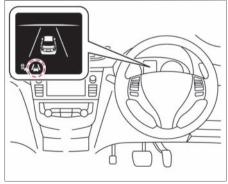
リヤビューカメラの取扱い

- システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。
  – カメラ周辺部はいつもきれいにしておいてください。レンズを洗浄するためのノズルが破損したり、ノズル内に汚れが溜まらないよう気を付けてください。
  ➔ 洗車のしかた (P.269)
  – 光が反射するため、ナンバープレートにアクセサリーを取り付けないでください。
  – カメラ周辺に強い衝撃を与えないでください。衝突などでカメラ周辺を破損したときは、日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

LDW（車線逸脱警報）★

運転者が意図せず走行車線から逸脱しそうなとき、警報によって注意を促します。

システムの作動

- LDW（車線逸脱警報)は車速約60km/h以上で作動します。
- 車両後部に設置されたリヤビューカメラにより、走行車線のレーンマーカーを検知し、右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると運転者に警報します。
  （警報音が鳴り、メーター内ディスプレイのLDW（車線逸脱警報)表示がオレンジ色に点滅します。）
  レーンマーカーとは、車線の右側もしくは左側に引かれた線のことを示します。

⚠ 警告

LDW（車線逸脱警報）は、脇見運転やぼんやり運転などの前方不注意および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、常に安全運転に心がけてください。

知識

- 次の場合は警報を行いません。
  - 方向指示器を使用しているとき
    （方向指示器を解除した後、約2秒間は作動しません）
  - 車速が約60km/hを下回っているとき
- メーター内のディスプレイを「走行支援」に切り替えると、LDW（車線逸脱警報）の作動状態をドライブコンピューター内で確認することができます。
  詳しくは、ドライブコンピューター（➔ ドライブコンピューター(P.114)）をお読みください。

LDW（車線逸脱警報）について

⚠ 注意

- 次のような状況では、レーンマーカーを正確に検出できず、適切な作動ができない場合があります。
  - 検出しにくいレーンマーカー（不明瞭なレーンマーカー、黄色のレーンマーカー、一般的でないレーンマーカー、水たまり･汚れ･雪などで隠れているレーンマーカー）がある道路を走行するとき
  - 急なカーブのある道路を走行するとき
  - 消されたレーンマーカーがまだ見えている道路を走行するとき
  - 道路上に影、雪、水たまり、わだち、道路のつなぎ目、線状の補修痕などがあるとき（これらのものをレーンマーカーとして検出して警報する場合があります）
  - 車線の分岐･合流のある道路を走行したとき
  - 自車がレーンマーカーに対してまっすぐに走行していないとき
  - LDW（車線逸脱警報）付車のリヤビューカメラは、レンズを自動的に洗浄する機能がありますが、カメラのレンズが著しく汚れている場合などでは、完全に汚れをとることができず、隣車線の車両を検知しないことがあります。
  - レンズを自動的に洗浄する機能は、ウォッシャー液を使用しています。ウォッシャースイッチを使わなくても、自動的に洗浄を行うため、運転する前にウォッシャー液の残量を確認し、ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。
    ➔ ウォッシャー液の補給 (P.240)
  - テールランプ等、車両後方の光が不十分で路面が暗い場合
  - 急な明るさの変化が起こったとき（トンネルの出入り口など）
- カーブのある道路走行中は警報が遅れる場合があります
- 状況によっては外部の騒音などにより、警報音が聞こえない場合があります。

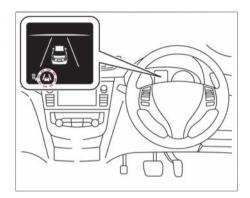
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ON･OFFのしかた

■ メーターでのON･OFFの設定

● メーター内のディスプレイで「運転支援システム」⇒「走行支援」⇒「逸脱防止支援」を選択すると、LDW（車線逸脱警報）機能のON･OFFを切り替えることができます。➔ ドライブコンピューター(P.114)
設定の詳細については、運転支援システム（➔P.119）をお読みください。

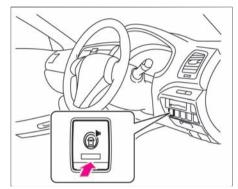
● 設定をONにすると、メーター内のディスプレイにあるLDW（車線逸脱警報）表示が点灯します。

知識

● 設定は、エンジンを再始動しても維持されます。

■ スイッチでのON･OFFの設定

- メーターでLDW（車線逸脱警報）機能をONに設定しているとき、LDW/BSW OFFスイッチでON･OFFを切り替えることができます。

スイッチの表示灯	ON･OFF状態
点灯	ON
消灯	OFF

知識

- エンジンを再始動するとONになります。
- スイッチをOFFにするとBSW（後側方車両検知警報）もOFFになります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告表示

- 次の場合、メーター内のLDW（車線逸脱警報）表示が点滅し、一時的にシステムが停止します。
  - トランクが開いた状態で走行したとき
  - カメラに付着した汚れ、雨、雪、氷などをレンズを洗浄する機能により取り除くことができないとき（メーター内のディスプレイに警告が表示されます）
    ➔ ドライブインジケーター (P.124)
- システムに異常があると、メーター内のLDW（車線逸脱警報)表示がオレンジ色に点灯するとともに、メーター内のディスプレイに警告が表示され、システムが自動的に停止します。
  ➔ ドライブインジケーター (P.124)

リヤビューカメラの取り扱い

➔ リヤビューカメラの取扱い (P.93)をお読みください。

アドバイス

- カメラが汚れているときは、柔らかい布で拭いてください。
  ➔ 洗車のしかた (P.269)
- 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。
  ➔ LDW表示★ (P.112)

メーターの見かた

各部名称と機能 P.100

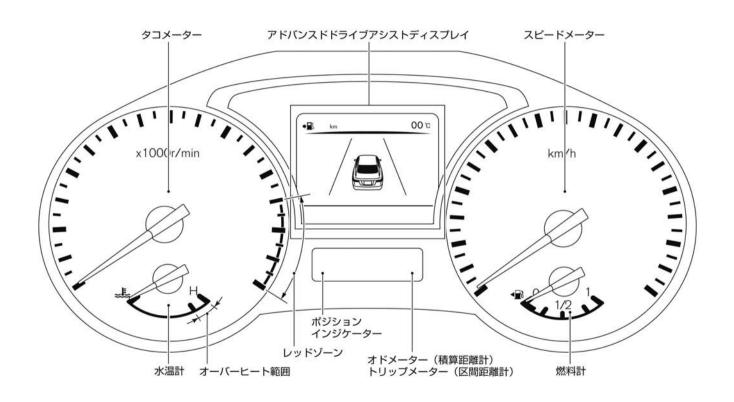
警告灯・表示灯

警告灯の表示位置 P.104
警告灯 P.105
表示灯の表示位置 P.109
表示灯 P.110

アドバンスドドライブアシストディスプレイの見かた

各部機能と名称 P.112
ドライブコンピューター P.114
ドライブインジケーター P.124

各部名称と機能

タコメーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ
スピードメーター
x1000r/min
km/h
H
0
1/2
1
ポジション
インジケーター
レッドゾーン
オドメーター（積算距離計）
トリップメーター（区間距離計）
水温計
オーバーヒート範囲
燃料計

スピードメーター（速度計）

走行速度を表示します。

タコメーター（エンジン回転計）

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

⚠ 注意

- レッドゾーン（赤色表示部）に入らないように運転してください。レッドゾーンではエンジンが過回転となり故障の原因になります。

水温計

電源ポジションがONのとき、エンジン冷却水の温度を表示します。

⚠ 注意

- オーバーヒートを示したときは、ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。
詳しくは、➔ オーバーヒートしたとき (P.224)をお読みください。

燃料計

電源ポジションがONのとき、燃料の残量を表示します。

- 燃料タンクの容量は約65ℓです。

> 知識
> - 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、表示が振れることがあります。

オドメーター（積算距離計）／トリップメーター（区間距離計）

オドメーター（積算距離計）

- 総走行距離をkmで表示します。

トリップメーター（区間距離計）

- [A] と [B] の2種類の区間走行距離をkmで表示します。
- TRIP RESETスイッチを押すごとに [A] と [B]が切り替わります。
- リセットするときは0にしたいほうを表示させ、TRIP RESETスイッチを1秒以上押します。

> 知識
> - バッテリーを外したときは、トリップメーターの [A] と [B] の記憶が消去され0に戻ります。

ポジションインジケーター

- セレクトレバーのセット位置を表示します。

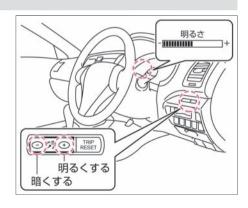
アドバンスドドライブアシストディスプレイ

電源ポジションがONのとき、次の項目を表示します。

- ➔ 外気温計 (P.112)
- ➔ LDW表示★ (P.112)
- ➔ BSW表示★ (P.113)
- ➔ クルーズコントロール表示★ (P.113)
- ➔ ドライブコンピューター (P.114)
- ➔ ドライブインジケーター (P.124)

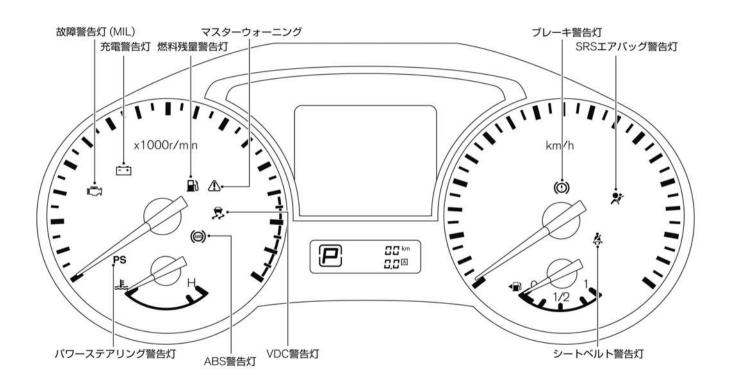
イルミネーションコントロール

電源ポジションがONのとき、車外の明るさに応じてメーター照明の明るさを調節できます。

- スイッチを押して調節します。
- 明るさのレベル表示は、メーター内のディスプレイに表示されます。

知識

- バッテリーを外すと調節した記憶は消去されます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯の表示位置

故障警告灯（MIL）
充電警告灯
燃料残量警告灯
マスターウォーニング
ブレーキ警告灯
SRSエアバッグ警告灯
x1000r/min
km/h
PS
H
0
1/2
1
P
km
A
パワーステアリング警告灯
ABS警告灯
VDC警告灯
シートベルト警告灯

警告灯

警告灯が点灯または点滅したときは、すみやかに適切な処置をしてください。
放置すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。
メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
故障警告灯 （MIL）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、ただちに日産販売会社にご連絡ください。
充電警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。 **注意** ● 点灯したまま走行しないでください。バッテリーが破損したり、エンジンが突然停止し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
ブレーキ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● 電源ポジションがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – パーキングブレーキをかけたとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社にご連絡ください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 **警告** ● パーキングブレーキを解除しても点灯し続けるときは、点灯したまま走行しないでください。また、ブレーキ液が規定量以下になっていたら走行しないでください。ブレーキの効きが極度に悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
ABS警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ABSのシステムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 アドバイス ● ABS警告灯が点灯したときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。この場合、滑りやすい路面でのブレーキ時や急ブレーキ時にタイヤがロックすることがあります。
シートベルト警告灯	● 電源ポジションがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 ● 点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 ● シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、センターコンソール後方にあります。 ● 後席シートベルトを外すとセンターコンソールの警告灯の点灯と合わせてメーター内のディスプレイに警告表示します。 ➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイ (P.103)	● シートベルトを着用してください。 ⚠ 警告 ● 走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。 **シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）** 知識 ● シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約90秒間ブザーが鳴ります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
SRSエアバッグ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	● 電源ポジションをON にして約7 秒たっても点灯、点滅し続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 警告 ● 電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
燃料残量警告灯	● 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約12ℓ以下で点灯します。 なお、走行に使用できる燃料容量は、上記残量より若干少なくなります。 ● 車両姿勢、走行状況などによっては燃料がタンク内で移動するため、警告灯の点灯するタイミングが変わる場合があります。
VDC警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC作動中に点滅します。 ● エンジン回転中、VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 点灯したときはVDCの作動は停止しますが、VDCのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● VDC（ビークルダイナミクスコントロール）(P.82)

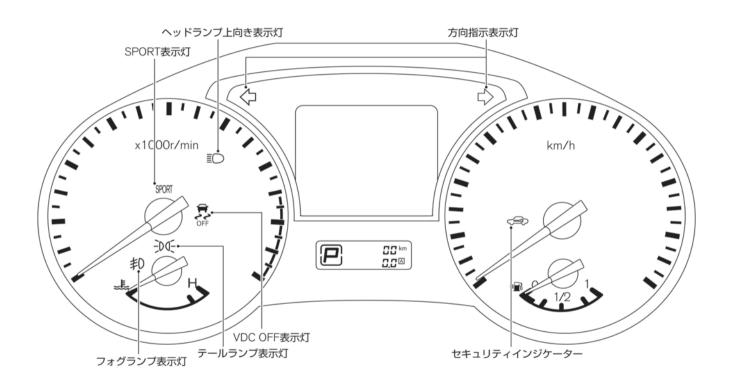
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
パワーステアリング警告灯 PS	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。 アドバイス ● ハンドルに長時間力をかけた状態が続いたり停車中に操作を繰り返すと、システムの過熱を防ぐためハンドル操作力が重くなりますが、異常ではありません。しばらくハンドル操作を控え、システムの温度が下がると、通常のハンドル操作力に戻ります。 ● システムが過熱するような操作を繰り返すと故障の原因になります。 知識 ● ハンドル操作時に、車両前方から機械が作動するような音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
マスターウォーニング	● メーターの警告灯や一部の表示灯が点灯したとき、またはアドバンスドドライブアシストディスプレイに一部の警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。	● 同時に点灯した警告灯または表示灯、警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。 ➔ ドライブインジケーター (P.124)

メーター

表示灯の表示位置

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

表示灯

メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
方向指示表示灯	● 方向指示器または非常点滅表示灯を作動させると点滅します。	● 方向指示器の電球（バルブ）が切れたときは点滅が速くなります。電球を交換してください。 ➔ 電球（バルブ）交換 (P.257)
ヘッドランプ 上向き表示灯	● ヘッドランプの上向きを点灯させせると点灯します。	詳しくは、➔ ヘッドライトの上向き、下向き切り替え (P.177)をお読みください。
テールランプ 表示灯	● 車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させせると点灯します。	詳しくは、➔ ライトの点灯･消灯 (P.175)をお読みください。
フォグランプ 表示灯	● フォグランプを点灯させせると点灯します。	詳しくは、➔ フォグランプの点灯･消灯 (P.177)をお読みください。
VDC OFF表示灯 OFF	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC OFFスイッチを押すと点灯します。	詳しくは、➔ VDC（ビークルダイナミクスコントロール） (P.82)をお読みください。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
セキュリティーインジケーター	● 電源ポジションがON以外のときに点滅します。 ➔ エンジンイモビライザー（盗難防止装置）(P.58)	● 電源ポジションをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。
SPORT表示灯 SPORT	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONでセレクトレバーが D または Ds のとき、スポーツモードスイッチをONにすると点灯します。	● 詳しくは、➔ スポーツモードスイッチの使いかた(P.62)をお読みください。

航続可能距離表示

- 現在の燃料残量と平均燃費から航続可能な距離を表示します。
- 燃料残量警告（➔P.124）が表示されると、航続可能距離の距離表示が点滅します。
- 燃料残量警告表示後も燃料を補給しないと「----」と表示します。

知識

- 数値は約30秒ごとに算出しています。

外気温計

外気温を表示します。

知識

- 外気温センサー取付部の温度を表示するため、実際の外気温とは異なることがあります。

LDW表示★

- LDW（車線逸脱警報）をONにすると表示します。
- 右側もしくは、左側のレーンマーカーに近づいたと判断すると、オレンジ色に点滅します。
- LDW（車線逸脱警報）に異常があると、オレンジ色に点灯します。
- LDW（車線逸脱警報）については、（➔P.94）をお読みください。

アドバイス

- オレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
エンジン再始動後も点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

BSW表示★

- BSW（後側方車両検知警報）をONにすると表示します。
- 次の場合、表示が点滅します。
  - トランクが開いた状態で走行したとき
  - カメラに付着した汚れ、雨、雪、氷などをレンズを洗浄する機能により取り除くことができないとき
- BSW（後側方車両検知警報）に異常があると、オレンジ色に点灯します。

BSW（後側方車両検知警報）については、（➔P.85）をお読みください。

アドバイス

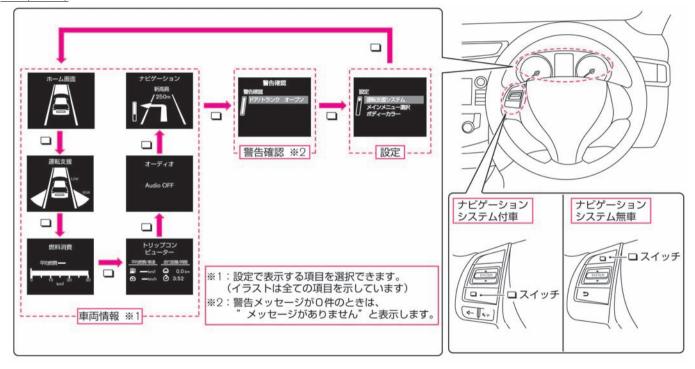
- カメラが汚れているときは、柔らかい布で拭いてください。
- 表示がオレンジ色に点灯したときは、安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。
  エンジン再始動後もオレンジ色に点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。通常走行には支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

クルーズコントロール表示★

- クルーズコントロールをONにすると表示します。
- クルーズコントロールシステムに異常があると、表示が点滅します。

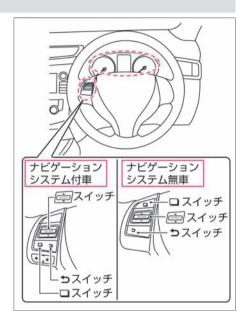
クルーズコントロールについては、（➔P.74）をお読みください。

ドライブコンピューター

電源ポジションをONにすると、 ❏ スイッチで次の順にモードを選択できます。
機能の詳細および表示項目については、車両情報（➔ 車両情報 (P.115)）、ドライブインジケーター（警告確認）（➔ ドライブインジケーター (P.124)）

車両情報

メーター内のディスプレイで、様々な機能の作動状態を確認できます。

- 電源ポジションがONのとき、ステアリングスイッチの □ スイッチで表示する項目を選択します。

知識

- 車両情報では次の項目を表示することができます。
  - ホーム
  - 運転支援システム★
  - 燃料消費
  - トリップコンピュータ
  - オーディオ★
  - ナビゲーション★

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ 表示項目設定

- 車両情報に表示する内容は、ディスプレイ内の、「設定」→「メインメニュー選択」で設定できます。
- 表示させたい項目は、 の上下で選択し、 を押して☑にすると選択できるようになります。
  詳しくは、設定（➔P.119）をお読みください。

■ 表示項目

項目	概要	詳細説明
ホーム	● 車のアイコンを表示します。	● 表示するアイコン色を変更できます。 ➔ 設定 (P.119)
運転支援システム★ LDW BSW	● 次のシステムの作動状態を表示します。 ー LDW（車線逸脱警報） ー BSW（後側方車両検知警報）	● 詳細は各システムの説明をお読みください。 ➔ LDW（車線逸脱警報）★ (P.94) ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.85)

ドライブコンピューター

項目	概要	詳細説明
燃料消費 平均燃費 ---- 0 10 20 30 km/l	● リセットしてから次にリセットするまでの平均燃費や、車速に応じたアクセルペダルの踏み加減などを表示します。 平均燃費をリセットするときは、□スイッチを1秒以上押します。	● 平均燃費は、バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 平均燃費は約30秒ごとに更新します。 ● ECOモードがOFFのときは、平均燃費と瞬間燃費を表示します。 詳しくは、ECOモード（➔P.71）をお読みください。
トリップコンピュータ 平均燃費/車速 走行距離/時間 ---- km/l 0.0 km --- km/h 3:52	● リセットしてから次にリセットするまでの平均燃費、平均車速および走行距離、走行時間を表示します。 ● リセットするときは、□スイッチを1秒以上押します。	● バッテリー接続後やリセット後は「---」と表示します。 ● 数値は約30秒ごとに更新しています。
オーディオ★ Audio OFF	● 現在使用中のオーディオ情報を表示します。	● オーディオの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目	概要	詳細説明
ナビゲーション★	● ナビゲーションシステムと連動し、次の右左折点までの距離などを表示します。 ナビゲーションシステムで目的地を設定していないときは、コンパス（車両の進行方位）を表示します。	● ナビゲーションシステムの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。 ● 次の場合はコンパス（車両の進行方位）を表示します。 – 交差点付近以外のとき – 目的地を設定していないとき – 「設定」内の「アラーム」で、ナビゲーションをOFFにしているとき

設定

- ディスプレイに表示する項目や様々な機能のON･OFFを設定することができます。
- ステアリングスイッチの [ENTER] の上下で選択し、 [ENTER] を押して決定します。

■ 運転支援システム

項目1	項目2	機能
走行支援★	逸脱防止支援	● LDW（車両逸脱警報）のON、OFFを設定します。 ➔ LDW（車線逸脱警報）★ (P.94)
	車線変更支援	● BSW（後側方車両検知警報）のON、OFFを設定します。 ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.85) ● 「明るさ」を選択すると、表示灯の明るさの調節ができます。
駐車支援★	MOD	● MOD（移動物検知）のON、OFFを設定します。 詳しくは、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

■ メインメニュー選択

- 車両情報としてメインメニューに表示する項目を設定します。
- メインメニューに表示する項目は、最大で5つまでです。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

■ ボディーカラー

- メーター内に表示する車両を、お好みのボディーカラー変更します。

■ エコモード設定

項目	機能
エコインジケータ	● エコドライブインジケーターのON、OFFを設定します。 ➔ ECOモード (P.71)
エコメータ表示	● エコペダルガイド、瞬間燃費を切り替えます。

■ メンテナンス

- 設定した距離を超えると次の項目を表示します。
  - オイル
  - タイヤ
  - ユーザー
- 最大30000kmまで設定できます。
- 設定距離は500km単位で切り替わります。（長押すると1000km単位で切り替わります。）
- リセットを選択すると走行した距離をリセットできます。

■ アラーム

項目	機能
凍結注意	● 凍結注意のON、OFFを設定します。
走行時間	● 最大6時間まで、0.5時間単位で設定できます。 ● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。
ナビゲーション★	● 走行中、次の右左折点に近接したとき、メーター内にポップアップでお知らせする機能のON、OFFを設定します。

■ 車両設定

項目	機能
自動室内灯	● 自動室内灯のON、OFFを設定します。 ➔ マップランプ／リヤパーソナルランプ (P.186)
オートライト感度調整	● オートライトの点灯タイミングを、より早い、早い、標準、遅いから選択します。 ➔ オートライトシステムについて (P.176)
車速連動ワイパー	● 車速連動のON、OFFを設定します。 ➔ ワイパーの使いかた (P.181)
I-keyエントリー	● I-keyエントリーのON、OFFを設定します。 ➔ インテリジェントキー機能による施錠･解錠 (P.141)
オートドアロック	● オートドアロックの作動タイミングを、非連動、車速連動、シフト連動から選択します。 ➔ インテリジェントキー機能による施錠･解錠 (P.141)
オートドアアンロック	● オートドアアンロックの作動タイミングを、非連動、IGN OFF連動、シフト連動から選択します。 ➔ インテリジェントキー機能による施錠･解錠 (P.141)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

項目	機能
バッテリーセイバー	● バッテリーセーバーのON、OFFを設定します。 ➔ ライトの点灯･消灯 (P.175) ➔ マップランプ (P.186) ➔ リヤパーソナルランプ (P.188)
降車時シート退避★	● 降車時シート退避のON、OFFを設定します。 ➔ 運転席オートドライビングポジションシート★ (P.41)

■ メーター演出

- メーター演出のON、OFFを設定します。
- メーター演出をONに設定すると、電源ポジションをONにしたとき、スピードメーターおよびタコメーターの指針が一度最大値付近を指し、戻ります。同時に、ディスプレイにアニメーションを表示します。

■ 工場出荷設定

- 「はい」を選択すると、ドライブコンピューターの設定が初期化されます。

ドライブインジケーター

メーター内の装備は、車種、グレードなどの違いにより異なります。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
BRAKE	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押し、エンジンを始動することを表示します。	● ブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押してください。エンジンが始動します。 知識 ● 次の場合、表示が消えます。 – エンジンを始動したとき – 電源ポジションをOFFにしてから約15秒経過したとき – リモートコントロールエントリー機能、またはリクエストスイッチでドアを施錠したとき – セレクトレバーが P 以外になったとき
	● インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境により、インテリジェントキーと車両の通信が正常に行われないときに表示します。	● ブレーキペダルを踏みながら、インテリジェントキーの裏面をエンジンスイッチに接触させてください。 ➔ インテリジェントキーで始動できない (P.213)
キー電池残量が 低下しています	● インテリジェントキーの電池切れが近くなると電池の交換を知らせます。	● 新しい電池に交換してください。 ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.140) 知識 ● 次の場合、インテリジェントキー電池切れ表示が消えます。 – 表示から約30秒経過したとき – 電源ポジションをON以外にしたとき

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
キーが見つかりません	● 次の場合に表示します。 – インテリジェントキーを携帯していないとき – 携帯しているインテリジェントキーの電池が切れているとき – 登録されていないインテリジェントキーを携帯しているとき	点灯·点滅した条件に応じて次のように対処してください。 ● インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか確認してください。 ● 電源ポジションをOFFにしてください。 ● インテリジェントキーを携帯してください。 ● 新しい電池に交換してください。 インテリジェントキーの電池交換 (P.140) ● 自車のインテリジェントキーであることを確認してください。
	● ドアが確実に閉まっていないとき、開いている位置を表示します。	● ドアを確実に閉めてください。 知識 ● 走行前に表示が消えていることを確認してください。ドアが完全に閉まっていない（半ドア）と走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
I-Keyシステム故障 取扱説明書を参照	● ステアリングロックやインテリジェントキーのシステムに異常があると表示します。	● 日産販売会社にご連絡ください。エンジンが始動できないことや電源ポジションが切り替わらないことがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
Pレンジに入れてください	● セレクトレバーがP以外のとき、電源ポジションをONからOFFにすると表示します。	● セレクトレバーをPにしてください。 ● 電源ポジションをONにしたときも表示が消えます。
キーIDが正しくありません	● 未登録のインテリジェントキーを携帯しているとき、電源ポジションを切り替えようとすると表示します。	● 登録済みのインテリジェントキーを使用してください。
パーキングブレーキを解除してください	● パーキングブレーキを戻し忘れたまま走行すると（約7km/h以上）、表示します。	● すみやかにパーキングブレーキを解除してください。 アドバイス ● 走行するときは、必ずパーキングブレーキを解除してください。
	● ステアリングロックを解除できないときに表示します。	● ハンドルを軽く左右に回しながらエンジンスイッチを押してください。

メーター

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
給油してください	● 燃料が少なくなると表示します。 残っている燃料で航続可能な距離を表示します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。 知識 ● 燃料の残量が約12ℓ以下で表示します。 ● 車両姿勢、走行状況によっては、燃料がタンク内で移動するため、警告が表示されるタイミングが変わる場合があります。
油圧低下；取扱説明書を見て下さい	● エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると表示します。	● ただちに安全な場所に停車し、エンジンを停止して日産販売会社にご連絡ください。 注意 ● 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損し発火するおそれがあります。
ウォッシャー液を補充してください	● ウォッシャー液が少なくなると表示します。	● 早めにウォッシャー液を補給してください。 ➔ ウォッシャー液の補給 (P.240)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ドライブインジケーター

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
バックビューカメラを拭いてください	● リヤカメラが汚れているときに表示します。	● リヤカメラを清掃してください。 ➔ カメラレンズのお手入れ (P.270)
省電源のため自動的に電源OFFします	● セレクトレバーを P にしたまましばらくすると表示します。	● そのまま電源ポジションを切り替えたり、セレクトレバーを動かしたりしないと、省エネのため自動的に電源ポジションがOFFになります。
省電源のため自動的に電源OFFしました	● 電源ポジションがONのとき、セレクトレバーが P のまま時間が経過し、自動的に電源ポジションがOFFになると表示します。	
ライト消灯して下さい	● 電源ポジションがON以外の位置で運転席ドアを開けたとき、ライトスイッチがOFFまたはAUTO以外の位置にあると表示します。	● ライトスイッチをOFFにしてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
オイル/フィルタ交換してください	● 設定したオイル/オイルフィルター交換距離に達すると表示します。	● オイル/オイルフィルター交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
メンテナンスタイヤ	● 設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。	● タイヤ交換距離は、設定したりリセットしたりできます。
メンテナンスユーザー	● オイル/オイルフィルター、タイヤ以外の整備項目の点検距離または交換距離に達すると表示します。	● その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検／交換距離は設定したり、リセットしたりできます。
凍結注意	● 外気温が3°C以下になったことを知らせます。	● 表示、非表示の設定ができます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明·対処方法
休息してください	● 設定した時間まで連続走行したことを知らせます。	● 表示、非表示の設定ができます。
後席	● 走行中に後席シートベルトを外すと表示します。	● 電源ポジションをONにすると、35秒間表示します。 ● 車速が25㎞/hで後席シートベルトを外すと、外した座席のシートベルト警告灯と合わせて表示します。 ➔ 警告灯 (P.105)
走行支援機能を選択してください	● LDW（車線逸脱警報）およびBSW（後側方車両検知警報）をメーター内のディスプレイで機能をOFFに設定しているときに表示します。	● LDW（車線逸脱警報）またはBSW（後側方車両検知警報）の設定をONにすると表示が消えます。 ➔ ドライブコンピューター (P.114)
取扱説明書をご確認ください	● LDW（車線逸脱警報）、BSW（後側方車両検知警報）、が故障すると表示します。	● 安全な場所に停車し、一度エンジンを停止してから再始動してください。 ● 再始動後もメッセージを表示するときは、システムの異常が考えられます。通常走行に支障はありませんが、日産販売会社で点検を受けてください。

画面に表示されたアイコンまたはメッセージ	表示される条件	説明･対処方法
CVT CVT故障：取扱説明書を見て下さい	● CVTシステムに異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
5つ以上のコンテンツは選択できません	● メインメニューで5つ以上の項目を選ぶと表示します。	● メインメニューに表示する項目は、最大で5つまでです。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ドアの施錠と解錠

インテリジェントキー P.134
インテリジェントキーの電池交換 P.140
ドア P.141

各部の開閉

トランクの開閉 P.149
燃料補給口 P.152

ウインドーの開閉

パワーウインドー P.154
電動ガラスサンルーフ★ P.156

エアコンの使いかた

オートエアコン★ P.161
インテリジェントエアコンシステム（ワンタッチクリーンスイッチ付）★ P.165
吹き出し口 P.169
エアコンについて P.170
インテリジェントエアコンシステム★について P.173

スイッチの操作

ライトスイッチ P.175
ワイパー･ウォッシャースイッチ P.181
前席エアコンディショニングシート★ P.183

室内装置

サンバイザー／バニティミラー P.185
マップランプ／リヤパーソナルランプ P.186
オーバーヘッドコンソール P.189
グローブボックス P.190
センターコンソールボックス P.191
インストポケット P.192
カップホルダー／ボトルホルダー P.193
電源ソケット P.196
アシストグリップ／コートハンガー P.197
トランクフック P.198
フロアカーペット P.199

インテリジェントキー

インテリジェントキーを携帯することにより、キーを取り出すことなくドアの施錠･解錠（➔P.141）や、エンジンの始動（➔P.64）ができます。

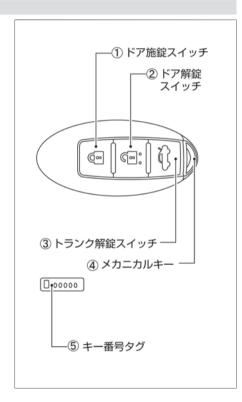
各部名称と機能

① ドア施錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアを施錠します。

② ドア解錠スイッチ
スイッチを押すと、全ドアを解錠します。

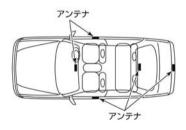
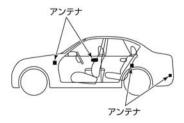
③ トランク解錠スイッチ
スイッチを1秒以上押すと、トランクが解錠します。

④ メカニカルキー
インテリジェントキーの電池が切れたときや、バッテリーがあがったときなどにドアの施錠･解錠ができます。

⑤ キー番号タグ
キーを紛失した場合、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できますので、大切に保管してください。

インテリジェントキーに関する注意事項

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。ドア開閉時、各リクエストスイッチ操作時、エンジン始動時などにインテリジェントキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気機器製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。
- 航空機内ではインテリジェントキーのスイッチを押さないでください。また、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

⚠ 注意

- インテリジェントキーは運転者が必ず携帯してください。
- インテリジェントキーは、エンジンの始動やドアの施錠･解錠など、車を操作するためにはなくてはならないものです。大切に保管してください。
- インテリジェントキーは、必ずメカニカルキーを内蔵した状態で携帯してください。

アドバイス

- インテリジェントキーは微弱な電波を使用しています。次のような使用環境では機能に障害が起こるため、インテリジェントキー機能やリモートコントロールエントリー機能が正常に作動しない場合があります。
  - 近くにテレビ塔や発電所、放送局など強い電波を発生する設備があるとき
  - 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき
  - インテリジェントキーが金属製の物に接したり、覆われたりしているとき
  - 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき
  - インテリジェントキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき

アドバイス

– コインパーキングに駐車したとき（車両検出用の電波の影響があるため）
– 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき
– 極端に気温が低いとき（電池の性能が低下するため）

- インテリジェントキーは電波法の認証に適合しています。次のことを必ずお守りください。
  – 電池を交換するとき以外は分解しない（分解、改造したのもを使用することは法律で禁止されています）
  – 日本国内のみで使用する
- インテリジェントキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが約2年程度です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。
  ➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.140)
- インテリジェントキーの電池が切れたときは、応急処置としてエンジンの始動やドアの施錠･解錠を行うことができます。
  ➔ インテリジェントキーで始動できない (P.213)
  ➔ インテリジェントキーでドア／トランクが開かない (P.212)
- インテリジェントキーをテレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。
- インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所では、作動範囲が狭くなったり、作動しないことがあります。
- インテリジェントキーは送信機を内蔵している精密機械です。故障を防止するため、次のことをお守りください。
  – 長時間高温になる場所に置かない
  – 分解しない

アドバイス

– 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない
– 水にぬらさない
– 超音波洗浄器などにかけない
– 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけない
– テレビ、オーディオなど、磁気を帯びた機器の近くに置かない

● インテリジェントキーはドアポケットに入れないでください。ドアを閉めるとき衝撃により破損するおそれがあります。また、ドアポケット内に一緒に入れておいた物がドアを閉めた衝撃で当たるなどして勝手にスイッチが入り、キーを車室内に封じ込めるおそれがあります。

知識

● インテリジェントキーは同じ車両で最大4個まで使うことができます。ご購入やご使用開始方法については、日産販売会社にご相談ください。

● インテリジェントキーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ただちに日産販売会社にご相談ください。

● キー番号を打刻したタグは大切に保管してください。キー番号を日産販売会社に連絡すると購入できます。

● インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。日産販売会社にご相談ください。
➔ インテリジェントキーの電池交換 (P.140)

アンサーバック機能

● ドアの施錠･解錠時に、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。（施錠時1回、解錠時2回）

● トランク解錠時に、作動確認のためのブザーが作動します。（解錠時４回）

知識

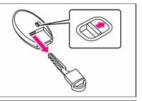
- アンサーバック機能を停止することができます。日産販売会社にご相談ください。

オートロック機能

- リクエストスイッチ（またはインテリジェントキーのドア解錠スイッチ）を押して、解錠後約30秒以内に以下のいずれかの操作も行わなかった場合は、盗難防止のため自動的に全ドアが施錠されます。（施錠されるまでの間に、再度インテリジェントキーの解錠スイッチを押すと、その時点から約30秒後に施錠されます。）
  - ドアを開ける
  - エンジンスイッチを押す

インテリジェントキーの電池交換

インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しないときは、電池の消耗または故障が考えられます。

1	キー裏側のロックを外しながら、メカニカルキーを引き抜きます。	
2	スリットにマイナスドライバーを差し込み、ひねってカバーを取り外します。（カバーが傷つかないように、マイナスドライバーに布を巻いてください。）	
3	消耗した電池を取り外し、新しい電池をはめ込みます。（新しい電池は、+極を下にして取り付けてください。） 使用電池：CR2032	
4	カバーの先端を合わせて上下のカバーを組み付けます。確実に取り付けられたことを確認してください。	

警告

- 電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

アドバイス

- 電池交換の際、キーを破損するおそれがあります。日産販売会社での交換をおすすめします。
- 内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
- 電池交換後は、インテリジェントキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

インテリジェントキー機能による施錠・解錠

■ 前席ドア／後席ドア

- インテリジェントキーを携帯し、運転席ドアまたは助手席ドアの施錠･解錠範囲内でドアハンドルのリクエストスイッチを押すと、全ドアが施錠または解錠します。
- 施錠したあとは、必ず施錠されたことを確認してください。

アドバイス

- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲は各リクエストスイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
- 急にドアハンドルを操作すると、ドアが解錠される前にドアハンドルが引かれるため、解錠できないことがあります。

知識

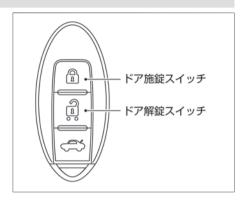
- インテリジェントキーを検知しているリクエストスイッチでのみ施錠･解錠を行うことができます。
- ドアの施錠･解錠時には、アンサーバック機能およびオートロック機能（➔P.135）が作動します。
- 次のような場合は、作動しません。
  - 電源ポジションがONのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
  - インテリジェントキーが施錠･解錠の作動範囲内にないとき

知識

– 携帯しているインテリジェントキー以外に自車のインテリジェントキーが車内にあるとき（解錠のみできます）
– インテリジェントキーの電池が切れているとき

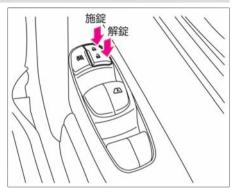
リモコンによる施錠・解錠

車に近づき、リモコンスイッチを押します。
作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）
ドア施錠スイッチ 🔒 を押すと全ドアを施錠します。
ドア解錠スイッチ 🔓 を押すと全ドアを解錠します。

知識

- 次のような場合は、インテリジェントキーのスイッチを押しても作動しません。
  - 電源ポジションがACC、ONのとき
  - ドアが完全に閉まっていない（半ドア）とき
    （解錠のみできます）
  - インテリジェントキーが車内にあるとき
    （解錠のみできます）
  - 車から離れすぎているとき
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき

ドアロックスイッチによる施錠・解錠

運転席のドアロックスイッチを押します。

- ドアロックスイッチの前側 🔒 を押すと全ドアを施錠します。
- ドアロックスイッチ後ろ側 🔓 を押すと全ドアを解錠します。

知識

衝撃感知式ドアロック解除システム

- 電源ポジションがONのとき、車両が前後方向または側面から強い衝撃を受けるとシステムが作動し、約3秒後に全ドアが自動的に解錠されます。衝撃の強さなどによっては、作動しないことがあります。システム作動後にシステムを解除させる（ドアをロックする）には、一旦電源ポジションをOFFにしてください。

電源ポジション連動ドアロック解除システム

- 電源ポジションをONからOFFにすると全ドアが自動的に解錠されます。
- メーターのディスプレイで電源ポジション連動ドアロック解除システムの作動･非作動を切り替えることができます。
詳しくは、➔ ドライブコンピューター (P.114)をお読みください。

車速感応式オート集中ドアロック

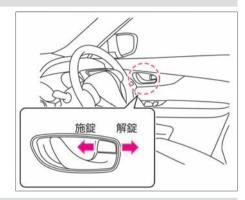
- 車速が約25km/h以上になると、全ドアが自動的に施錠されます。ただしそのあと解錠すると、再度施錠はされません。再度作動させるには、い

知識

ずれかのドアを開けるか、電源ポジションをOFFにします。

- 衝撃感知式ドアロック解除システム作動後は、一旦電源ポジションをOFFにするまでは作動しません。

ロックノブによる施錠・解錠

ロックノブを前方に押し込むと施錠します。
ロックノブを手前に引くと解錠します。

📖 知識

- 運転席のロックノブで全ドアが施錠または解錠します。
- 運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。そのとき、全ドアが解錠します。

キーを使わない施錠

- **前席ドア**
  車室内のロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。
- **後席ドア**
  車室内のロックノブを押し込み、そのままドアを閉めます。

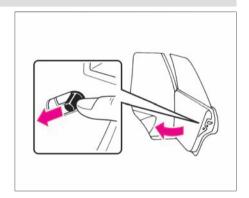
📖 知識

キー封じ込み防止機能

- インテリジェントキーが車内（トランク内も）にあるときは、施錠できません。インテリジェントキーを車室内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。

チャイルドセーフティドアロック

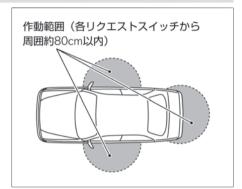
車室内のロックノブの位置に関係なく、後席ドアを車室内から開けられなくできます。

- **ドアロックのしかた**
  後席ドアにあるロックレバーをLOCK位置にしてドアを閉めます。
- **ドアを開けるとき**
  ロック作動中にドアを開けるときは、ドアが解錠していることを確認し、車外からドアハンドルを引きます。

知識

- 車室内から開けるときは、窓ガラスを下げ、手を外に出して車外のドアハンドルを引きます。

ドアの施錠･解錠の作動範囲

作動範囲は各リクエストスイッチから周囲約80cm以内です。作動範囲は各リクエストスイッチを中心に球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。
インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、インテリジェントキーを携帯している人以外でも施錠･解錠の操作ができます。

- ドアハンドルのリクエストスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- 解錠される前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一度ドアハンドルを離してから再び引いて開けてください。
- 車から離れるときは、盗難や事故防止のため、必ず電源ポジションをOFFにして施錠してください。

⚠ 警告

- ドアの開閉はお子さまにはさせないでください。手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ドアを開けるときは、周囲の安全を十分に注意してください。後続車や通行人にぶつかるおそれがあります。風が強いときは特に注意して開けてください。
- 走行する前にドアを確実に閉めてください。走行中に突然ドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インテリジェントキーによる解錠

- インテリジェントキーを携帯し、トランクオープン･リクエストスイッチを押すと、トランクが解錠します。

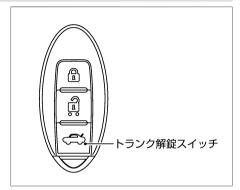
アドバイス

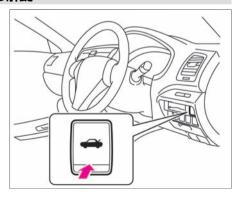
- 車両に近づきすぎている場合などは作動しないことがあります。
- 作動範囲はトランクオープン･リクエストスイッチを中心に約80cmの球状になっているため、地面近くや高い場所では作動しないことがあります。

知識

- 次のような場合は作動しません。
  - インテリジェントキーが作動範囲にないとき
  - インテリジェントキーの電池が切れているとき

リモコンによる解錠

車に近づき、インテリジェントキーのスイッチを1秒以上押します。
作動範囲は、車両から約1mです。（作動範囲は周囲の状況によって変化します。）

トランクオープナースイッチによる解錠

トランクオープナースイッチを押すと解錠します。

アドバイス

- 以下の場合は、解錠してもトランクリッドが半ドア状態になることがあります。その場合は、トランクオープン･リクエストスイッチで再度解錠し、手でトランクリッドを持ち上げてください。
  – トランクリッドに雪やアクセサリーなどの重量物が付いているとき
  – トランクリッドが凍結しているとき

トランクの開閉

開閉のしかた

- 開けるときは、解錠後トランクリッドを持ち上げ、全開にします。
- 閉めるときは、トランクリッドを降ろし、確実にロックするまで押し付けます。

知識

バッテリーあがりなどにより、トランクを開けられなくなったときは、➔ トランクの開けかた (P.212)をお読みください。

注意

- トランクリッドは必ず全開してください。途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まることがありますので特に注意してください。
- トランクを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

アドバイス

- キーをトランク内に置き忘れないでください。

燃料補給口

燃料補給口は助手席側の車両後方にあります。

燃料の補給

燃料タンクの容量は、約65 ℓ です。

エンジン型式	指定燃料
QR25DE	無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 指定以外の燃料は補給しないでください。

燃料補給時の注意事項

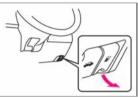
⚠ 警告

- 燃料補給時は、以下のことを必ずお守りください。
  - 電源ポジションをOFFにする
  - 車のドアや窓を閉める
  - タバコなどの火気を近づけない
  - 気化した燃料を吸わない
- 補給作業を行う前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。
- 補給作業はひとりで行ってください。作業中に車内に戻ったり、帯電している人や物に触れると再帯電するおそれがあります。
- キャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると、燃料が補給口から吹き返すおそれがあります。
- 給油ノズルは確実に給油口へ挿入してください。給油ノズルの挿入が浅いと、給油の自動停止が遅れるため、燃料が吹きこぼれ火災につながるおそれがあります。
- 給油ノズルの自動停止後は、給油の継ぎ足しをしないでください。継ぎ足しをすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

燃料補給口

開閉のしかた

■ 開けかた

1	運転席右下にあるオープナーを引きリッドを開けます。	
2	キャップを左にゆっくり回して開けます。 補給時、キャップのひもはリッド裏側のホルダーに引っ掛けます。	

■ 閉めかた

① キャップを“カチッ、カチッ”と、2回以上音がするまで右に回して閉めます。
② リッドを閉めます。

⚠ 警告

- キャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災につながるおそれがあります。
- 日産純正品以外のキャップは使用しないでください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

パワーウインドー

電源ポジションがONのとき操作できます。

開閉のしかた

運転席スイッチでは、各席窓ガラスの開閉ができます。助手席および後席スイッチでは、自席の窓ガラスの開閉ができます。

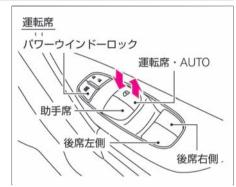
- スイッチを押している間、開きます。
- スイッチを引き上げている間、閉まります。

ワンタッチ開閉のしかた（AUTO）

運転席の窓ガラスは、ワンタッチで開閉できます。

- スイッチを強く押すと全開します。
- スイッチを強く引き上げると全閉します。
- 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引きます。

ロックのしかた

- 運転席のパワーウインドーロックスイッチを押し込むと、助手席と後席の窓ガラスの開閉ができなくなります。
- スイッチを押し戻すと開閉できます。

⚠ 警告

- 走行中は顔や手、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- 窓ガラスを閉めるときは、手や首などを挟まないよう注意してください。
- お子さまを乗せているときは、パワーウインドーロックスイッチを押し込み、操作させないようにしてください。重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

キーOFF後作動機構

- 運転席の窓ガラスは、電源ポジションをOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

挟み込み防止機構

- 運転席の窓ガラスをワンタッチ開閉で閉めているときやキーOFF後作動機構で閉めているときに、車体と窓ガラスの間に異物の挟み込みを感知すると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると作動することがあります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを上側へ引き続けて閉めてください。

正常に作動しないとき

バッテリーを外したり、開閉操作を連続して行うと、運転席窓ガラスのワンタッチ開閉、挟み込み防止機構、キーOFF後作動機構が正常に作動しないことがあります。以下の操作を行い、初期設定してください。

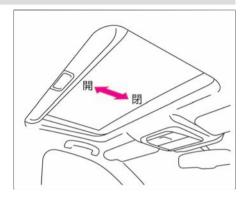
① 電源ポジションをONにします。
② スイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
③ スイッチを引き上げ続け、窓ガラスが全閉して3秒以上たってから手を離します。
④ 正常に作動することを確認します。正常に作動しないときは、再度上記の操作を行ってください。

上記の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 注意

- 窓ガラスを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。

サンシェードの開閉

- 手動で開閉します。
- サンルーフを開けると連動して開きます。
- サンルーフを開けているときは、開けているところまで閉めることができます。

⚠ 警告

- 走行中は手や顔、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- サンルーフを開閉するときは、手や首などを挟まないよう注意してください。また、お子さまには操作させないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。

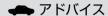
⚠ 注意

- 運転中はサンルーフの開閉操作を行わないでください。前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作は信号待ちなどの停車中に行ってください。
- ルーフに水や雪などがあるときは開けないでください。突然の水や雪に驚き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 開口部に腰を掛けたり、荷物を載せるなど、大きな力をかけないでください。ルーフが変形するおそれがあります。
- 車から離れるときや洗車するとき

電動ガラスサンルーフ★

 アドバイス

は、盗難や故障などを防ぐためサンルーフを必ず閉めてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

電動ガラスサンルーフ★

サンルーフの開閉

電源ポジションがONのときに操作できます。

チルトアップのしかた

- スイッチをⒶ側に押すと、後部が上がります。
- スイッチをⒷ側に押すと、後部が下がります。

開閉のしかた

- スイッチをⒷ側に押すと、自動で全開します。
- スイッチをⒶ側に押すと、自動で全閉します。
- 途中で止めたいときは、再度スイッチを押します。

知識

- チルトアップしているときは、前後の開閉はできません。

挟み込み防止機構

自動でサンルーフを閉めるときに、車体とサンルーフの間に異物の挟み込みを感知すると、サンルーフが停止し、自動で開き始めます。

注意

- サンルーフを確実に閉めるため、閉め切る直前の部分では挟み込みを感知できない領域があります。指などを挟まれないように注意してください。

アドバイス

- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、サンルーフを自動で閉めることができないときは、サンルーフスイッチを閉方向に繰り返し押して閉めてください。

知識

- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重がサンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

正常に作動しないとき

サンルーフが正常に作動しないときは、以下の操作を行い初期設定し直してください。

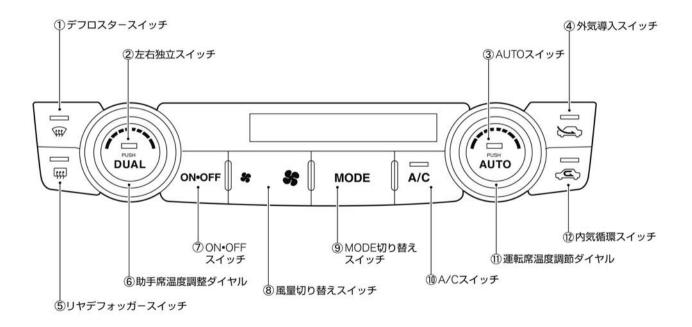
① サンルーフをチルトアップ状態にします。
サンルーフが動かなくなるまでスイッチをⒶ側に繰り返し押し、チルトアップ状態にします。

② スイッチをⒶ側に押し続けます。
サンルーフが上下に少し動くまでスイッチを押し続けます。

③ スイッチをⒷ側に押し、全閉状態にしてから正常に作動するか確認します。

アドバイス

- 手順①から③の操作で作動できない場合は、早めに日産販売会社で点検を受けてください。

各スイッチの名称と機能

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

① **デフロスタースイッチ**
フロントガラスのくもりを取るときに使います。

② **左右独立スイッチ**
スイッチを押すごとに左右独立モードのON･OFFが切り替わります。

③ **AUTOスイッチ**
スイッチを押すと、冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気循環／外気導入の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。

④ **外気導入スイッチ**
外気を取り入れたいときや、タバコの煙などを外に出したいときに使います。

⑤ **リヤデフォッガースイッチ**
リヤの窓ガラスのくもりを取るときに使います。

⑥ **助手席温度調節ダイヤル**
ダイヤルを左右に回すと助手席の設定温度が切り替わります。

⑦ **ON･OFFスイッチ**
スイッチを押すごとに、エアコンのON･OFFが切り替わります。

⑧ **風量切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、風量が切り替わります。

⑨ **MODE切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。

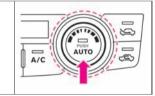
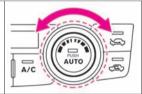
⑩ **A/Cスイッチ**
スイッチを押すごとに冷房･除湿機能のON/OFFが切り替わります。

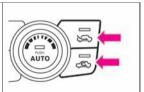
⑪ **運転席温度調節ダイヤル**
ダイヤルを左右に回すと設定温度が切り替わります。
左右独立モードがONのときは、運転席の設定温度が切り替わります。

⑫ **内気循環スイッチ**
トンネル内や渋滞などで外気が汚れているときや、早く冷房暖房したいときに使います。

オートエアコン★

オートで使うとき

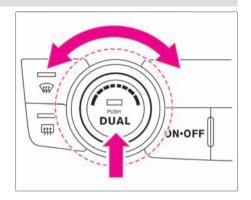
オートで使用すると、冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気循環／外気導入の切り替えを自動で制御して室内温度を一定に保ちます。

1	AUTOスイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
2	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右側： 設定温度を上げる 左側： 設定温度を下げる	
3	内気循環／外気導入を自動制御に切り替えます。 内気循環または外気導入スイッチの点灯している方のスイッチを約2秒間押し続けます。	

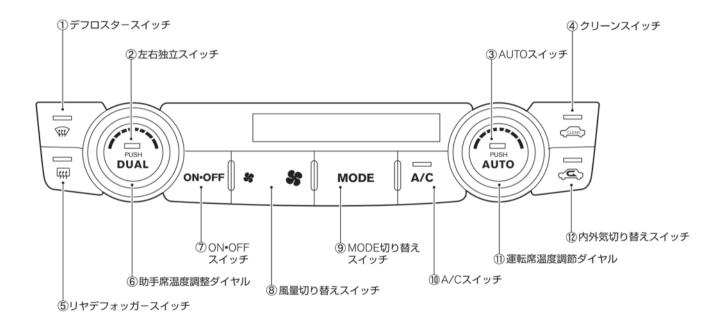
知識

- オートで使用中に、冷房、暖房の切り替え、風量、吹き出し口、内気循環／外気導入の切り替えをマニュアル操作したときは、操作したスイッチ以外は自動調節されます。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

運転席と助手席を別々に調節する

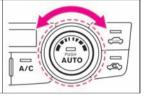
- 左右独立スイッチを押す、または助手席の温度調節ダイヤルで希望の設定温度に調節すると左右独立モードになります。
- 解除するときは、左右独立スイッチを押します。

知識

- デフロスタースイッチの表示灯が点灯しているときは、左右独立モードに切り替えることができません。

各スイッチの名称と機能

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

①　**デフロスタースイッチ**
フロントガラスのくもりを取るときに使います。
②　**左右独立スイッチ**
スイッチを押すごとに左右独立モードのON･OFFが切り替わります。
③　**AUTOスイッチ**
スイッチを押すと、冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気循環／外気導入の切り替えを自動調節して設定した温度に保ちます。
④　**クリーンスイッチ**
内気循環･外気導入の切り替えが外気の排ガス、臭いに応じて自動制御になります。
⑤　**リヤデフォッガースイッチ**
リヤの窓ガラスのくもりを取るときに使います。
⑥　**助手席温度調節ダイヤル**
ダイヤルを左右に回すと助手席の設定温度が切り替わります。
⑦　**ON･OFFスイッチ**
スイッチを押すごとに、エアコンのON･OFFが切り替わります。
⑧　**風量切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、風量が切り替わります。
⑨　**MODE切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。
⑩　**A/Cスイッチ**
スイッチを押すごとに冷房･除湿機能のON/OFFが切り替わります。
⑪　**運転席温度調節ダイヤル**
ダイヤルを左右に回すと設定温度が切り替わります。
左右独立モードがONのときは、運転席の設定温度が切り替わります。
⑫　**内外気切り替えスイッチ**
スイッチを押すごとに、内気循環･外気導入が切り替わります。

オートで使うとき

オートで使用すると、冷房･暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気循環／外気導入の切り替えを自動で制御して室内温度を一定に保ちます。

1	AUTOスイッチを押します。 （スイッチの表示灯が点灯）	
2	温度調節ダイヤルを回して、設定温度を調節します。 右側： 設定温度を上げる 左側： 設定温度を下げる	
3	内気循環／外気導入を自動制御に切り替えます。 クリーンスイッチの表示灯が消灯しているときは、クリーンスイッチを押します。	

知識

- オートで使用中に、冷房、暖房の切り替え、風量、吹き出し口、内気循環／外気導入の切り替えをマニュアル操作したときは、操作したスイッチ以外は自動調節されます。
- 次のような場合は、クリーンスイッチを押してもインテリジェントエアコンシステムは作動しません。
  - 吹き出し口がデフロスター位置のとき
  - 外気温が約0°C以下のとき

各部の操作

運転席と助手席を別々に調節する

- 左右独立スイッチを押す、または助手席の温度調節ダイヤルで希望の設定温度に調節すると左右独立モードになります。
- 解除するときは、左右独立スイッチを押します。

知識

- デフロスタースイッチの表示灯が点灯しているときは、左右独立モードに切り替えることができません。

吹き出し口

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

エアコンについて

⚠ 警告

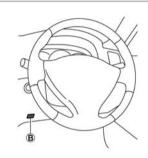
- 内気循環で長時間使用すると、窓ガラスがくもりやすくなり視界が損なわれ危険ですので、一時的に使ってください。
- お子さま、介護を必要とされる方、ペットを車室内に残さないでください。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方などには、吹き出し風が長時間連続してあたらないように運転者が注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- デフロスタースイッチをONにしているときに、エアコンの設定温度を低くすると、フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

- 自動温度調節は日射センサーⒶと温度センサーⒷで行っています。センサーをふさいだり、クリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

アドバイス

- ほこり、花粉、粉じんなどを集じんするためのクリーンフィルター★を装着しています。集じん性能を維持するため、クリーンフィルターは定期的に交換してください。
  交換時期：1 年ごとまたは12,000km走行ごと
- クリーンフィルターが交換時期に満たない場合でも、吹き出し風量が極端に減少したり、窓ガラスがくもりやすくなった場合は交換してください。なお、取り付け、交換などについては、日産販売会社にご相談ください。
- 外気導入に固定していると、夏場など外気温が高いときは、冷房の効きが悪くなる場合があります。その場合は、一時的に内気循環にしてください。
- エアコン装置のオイル循環を切らさないために、ときどきA/CスイッチをONにしてください。なお、外気温が0℃近くまで下がるとエアコン装置が作動しないことがあるため、暖かい日に行ってください。
- エアコンガスは必ずHFC134a（R134a）を入れてください。
- 地球温暖化防止のためエアコンガスを大気放出しないでください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

知識

- 冷房時、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。
- 外気温が0℃近くまで下がると、A/Cスイッチが点灯していてもエアコンが作動しないことがあります。
- 始動直後で吹き出し風の温度が低いときは、足元への吹き出し風量が少なくなります。

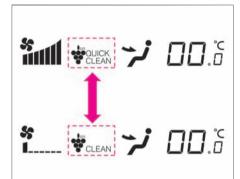
エアコンのにおいについて

エアコン装置は、空気中のいろいろなにおいが混ざり合うため、吹き出し風からにおいを感じることがあります。

知識

- エアコン作動時のにおいを抑えるため、駐車時などは外気導入にしておくことをおすすめします。

プラズマクラスターイオンフルオートエアコン（除菌機能付）

- 濃度を高めたプラズマクラスターイオンをエアコンの吹き出し風に含ませ、除菌とともに内装に染みついたにおいを低減します。さらに肌の保湿効果をプラスしました。
  風量により、CLEANモードとQUICK CLEANモードが切り替わります。

知識

- プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよびPlasmaclusterはシャープ株式会社の商標です。

におい･排出ガス検知式内外気自動切換え機構

- 排気ガスや不快なにおい（家畜臭、工場の排気臭など）を車両前部のセンサーで検知し、吸い込み口を切り替えるシステムです。
- クリーンスイッチを押すと作動します。（スイッチの表示灯が点灯）
- 作動後約5分間は、吸い込み口が内気循環に固定され、花粉などの侵入を防ぎながら車内をすばやく除菌します。
- 5分以降は、ガスセンサーの働きにより、内気循環⇔外気導入を自動で切り替えます。

知識

- 風向きによっては排気ガスやにおいを検知できない場合がありますが異常ではありません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

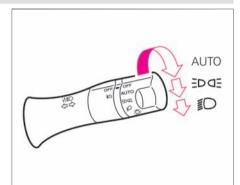
インテリジェントエアコンシステム★について

高性能フィルター

- 通常のクリーンフィルターの機能に加えアレル物質（花粉およびダニの糞･死がいなど）を除去します。
- 高性能フィルターは定期的なメンテナンスや交換が必要です。
  ➔ エアコンについて (P.170)

ライトの点灯・消灯

スイッチを回し、●の位置にマークを合わせます。

スイッチ位置	点灯する灯火
OFF	全ライトが消灯
AUTO	自動点灯・消灯
(車幅灯マーク)	車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
(ヘッドランプマーク)	ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

アドバイス

- エンジン停止時に長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ヘッドランプ、制動灯などは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがありますが異常ではありません。

バッテリーセーバー

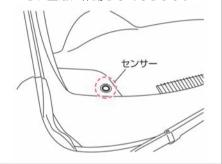
- ライトを点灯したまま電源ポジションをOFFにし、リモコンまたはリクエストスイッチで施錠するとバッテリーあがりを防止するためライトが消灯します。
  次回、次のことを行うとライトが再点灯します。
  - エンジンをかける
  - 電源ポジションをACCにする
  - ライトスイッチを操作する

オートライトシステムについて

- 電源ポジションがONのときに使えます。
- 電源ポジションをOFFにすると消灯します。
- スイッチを回し、●の位置にマーク（AUTO）を合わせると、次のように点灯･消灯します。

車外の明るさ	ワイパー作動中	ワイパー停止
明るいとき	**点灯**	消灯
薄暗いとき	**点灯**	**点灯**
暗いとき	**点灯**	**点灯**

アドバイス

- センサーの上に物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

知識

フロントワイパー連動、薄暮れ感知機能

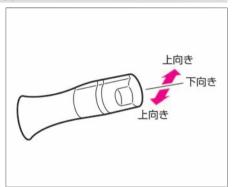
- 夜間やトンネルなどの走行時に加え、歩行者事故などが多く発生している夕暮れ時や雨天でのフロントワイパー作動時もライトを点灯させることにより、自車両を目立たせ、周囲の歩行者やドライバーへの注意を喚起します。

ヘッドライトの上向き、下向き切り替え

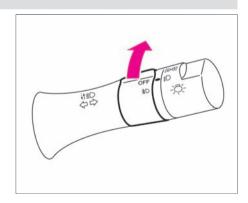
下向き：
レバーを中立位置にします。
上向き：
ヘッドライト点灯時にレバーを前方に押します。
パッシング：
スイッチ位置に関係なく、レバーを手前に引きます。

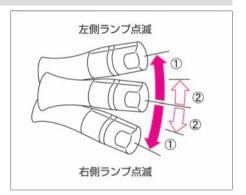
フォグランプの点灯･消灯

ライトが点灯しているときに使えます。
霧などで視界が悪いときに使います。

- スイッチを回してマークを●の位置にあわせると点灯します。
（メーター内のフォグランプ表示灯が点灯）
- 消灯するときは、OFFに合わせます。
（メーター内のフォグランプ表示灯が消灯）

アドバイス

- 対向車があるときや市街地走行などでは下向きにしてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

方向指示器スイッチ

- 電源ポジションがONのとき使えます。
- スイッチを①の位置まで上または下に動かすと、方向指示器のランプが点滅します。
  （メーター内の表示灯が点滅）
- 車線変更などのときには、スイッチを②の位置まで上または下に軽く押さえます。
  スイッチを押さえている間は点滅し、手を離すと消灯します。
  また、スイッチを②の位置まで上または下に押さえたあと、すぐに手を離したときは3回点滅し消灯します。

アドバイス

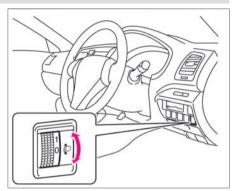
- 方向指示器のランプとメーター内の方向指示表示灯の点滅が速くなったときは、方向指示器のランプの電球切れなどのおそれがあります。電球を交換してください。
  ➔ 電球（バルブ）交換 (P.257)

ヘッドランプレベライザースイッチ★

ハロゲンヘッドランプ付車はヘッドランプが下向き点灯時に、照らす向きを調整します。

- 通常は、スイッチが0の位置で使います。
- スイッチを回し、数字が大きくなるほど、照らす向きが下側になります。

■ 各スイッチ位置の目安

<table>
<tr><th>乗員</th><th>トランクの積載状況</th><th>スイッチ位置</th></tr>
<tr><td>運転席のみ</td><td rowspan="3">積載なし</td><td rowspan="2">0</td></tr>
<tr><td>前席2名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5名</td><td>1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">満載</td><td>2</td></tr>
<tr><td>運転席のみ</td><td>3</td></tr>
</table>

アドバイス

- 乗車人員や荷物量の違いにより、ヘッドランプが上側を照らすときや、アップダウンの多い山道などで、前を走行する車のミラーや対向車のフロントガラスを照らすようなときは、照らす向きを下側に調整してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

キセノンヘッドランプについて★

光量が多く太陽光に近い白色であるため、明るく自然で見やすいヘッドランプです。

オートレベライザー

ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると自動的に照射方向を調整するシステムです。

警告

- キセノンヘッドランプは、点灯時高電圧になります。感電防止のため、ランプの分解、改造はしないでください。ランプの脱着、バルブの交換は、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- ランプが切れかかったときには、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れたときは、日産販売会社にご相談ください。

知識

- ヘッドランプ点灯時は、安定するまで若干明るさや色が変化することがあります。

ワイパー･ウォッシャースイッチ

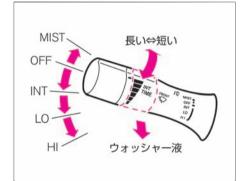
電源ポジションがONのときに作動します。

ワイパーの使いかた

- スイッチを上下に動かします。
- 間けつ作動の間隔を調節するときは、スイッチを回します。

スイッチ位置	作動
MIST	1回作動
OFF	停止
INT	間けつ作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

ウォッシャーの使いかた

- スイッチを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射しワイパーが数回作動します。

知識

- MISTの位置では、スイッチを押し上げている間ワイパーは作動し、手を離すと自動的にOFF位置に戻り停止します。
- 間けつ作動の間隔は、車速が速くなると短くなる車速感知式です。
- ライトスイッチがAUTO位置のときにワイパーが数回作動すると、車外の明るさに関係なくライトが点灯します。
  ➔ オートライトシステムについて(P.176)
- ウォッシャー液が少なくなると、メーター内のディスプレイに警告表示します。
  ➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイ (P.103)

ワイパー･ウォッシャーを使うときの注意事項

警告

- 寒冷時は、ガラスに吹きつけられたウォッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、ヒーターを使ってガラスを温めてください。また、ウォッシャー液は外気温に合わせた希釈割合にしてください。

アドバイス

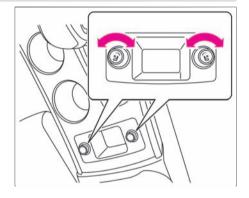
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ワイパーに雪が積もり、破損するおそれがあります。
- ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、スイッチをOFFにし障害物を取り除いたあと、モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。ワイパーが作動を開始します。
- 凍結などでブレードがガラスに張り付いているときは、作動させないでください。ワイパーが損傷したり、モーターが故障するおそれがあります。
- 窓ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してからワイパーを使ってください。ガラスが乾いた状態でワイパーを使用すると、ガラスやブレード（ゴム部）を傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないときは、そのままで30秒以上作動させないでください。モーターが故障する原因となります。
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、日産販売会社にご相談ください。

前席エアコンディショニングシート★

電源ポジションがONのときに作動します。

ON･OFFのしかた

シート表面から温風または冷風を出し、冷えや蒸れを軽減します。
運転席、助手席それぞれ別々に調節することができます。

- 冷やしたいときはダイヤルを左に回します。
（ダイヤルの表示灯が点灯）
ダイヤルを左に回すほど温度が下がり、風量も多くなります。
- 温めたいときは、ダイヤルを右に回します。
（ダイヤルの表示灯が点灯）
ダイヤルを右に回すほど温度が上がり、風量は自動制御されます。
- 止めるときは、ダイヤルを中立位置にします。
（ダイヤルの表示灯が消灯）

注意

- 長時間の連続使用は低温やけどや冷やしすぎの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、身体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意して使ってください。
- シートに毛布や座布団をのせたり、日産純正以外のシートカバーを使わないでください。過熱のおそれがあります。
- 固くて重い物や突起がある物をシートにのせたり、ピンや針などの鋭い物でシートをつきささないでください。
- シート清掃時、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤の使用はやめてください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐにふき取ってください。

知識

- バッテリーあがりを防止するため、エンジン始動後に使ってください。また、アイドリング状態での連続使用は避けてください。

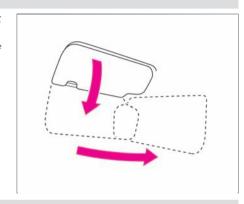
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

前席エアコンディショニングシート★

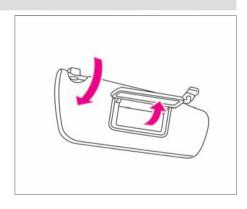
知識

- ほこりなどを集じんするためのフィルターを装着しています。
  性能の低下を感じたときは、フィルターの目詰まりが考えられます。日産販売会社にご相談ください。

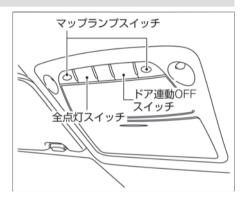
サンバイザー

● 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います。
● 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います。

照明付きバニティミラー

● サンバイザー裏側に照明付きのバニティミラー（鏡）が付いています。
● サンバイザーを下に下げ、ふたを開けて使います。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

マップランプ

- 次のようにマップランプの点灯･消灯のしかたを変えられます。

スイッチ	点灯･消灯のしかた
全点灯スイッチ	スイッチを押すと、マップランプおよびリヤパーソナルランプが常時点灯します。もう一度押すと消灯します。
ドア連動OFFスイッチ	スイッチを押すと、常時消灯します。
マップランプスイッチ	スイッチを押した方のマップランプが点灯します。もう一度押すと消灯します。

アドバイス

- 電源ポジションがOFFのときは、マップランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- ドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - ドアが開いているとき
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間
- メーター内のディスプレイで「設定」⇒「車両設定」⇒「自動室内灯」を選択する と、キー連動室内照明システム機能のON･OFFを切り替えることができます。
  ➔ ドライブコンピューター (P.114)
  設定の詳細については、車両設定（➔P.121）をお読みください。

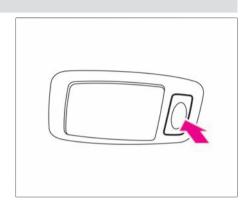
各部の操作

知識

バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

リヤパーソナルランプ

- スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

アドバイス

- 電源ポジションがOFFのときは、リヤパーソナルランプを長時間点灯させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知識

- マップランプのドア連動OFFスイッチが押し込まれていないときは、次の条件で点灯します。
  - ドアが開いているとき
  - 電源ポジションをOFFにしてから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを解錠してから約15秒間
  - 電源ポジションがOFFのとき、ドアを閉めてから約15秒間

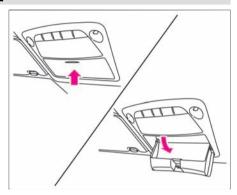
バッテリーセーバー

- バッテリーあがりを防止するため、室内照明は15分以上点灯し続けると、自動的に消灯します。

オーバーヘッドコンソール

オーバーヘッドコンソールについて

サングラスなどを収納することができます。

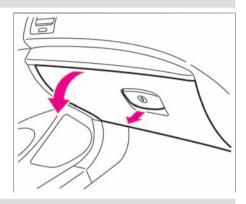
- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

⚠ 注意

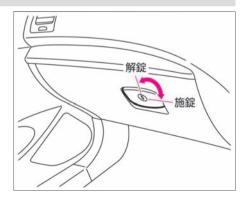
- 開閉は停車中に行い、開けたまま走行しないでください。また、重量のある物を入れないでください。落下して思わぬケガにつながるおそれがあります。
- 炎天下での駐車は大変高温になりますので、サングラス、メガネ、ライターなどを入れたままにしないでください。変形するおそれがあります。

開閉のしかた

● 開けるときは、ノブを手前に引きます。
● 閉めるときは、ロックするまでふたを押します。

施錠･解錠のしかた

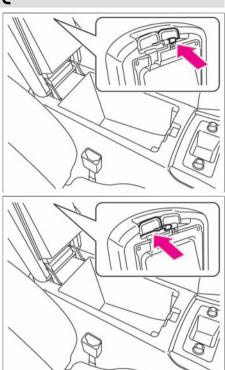
● メカニカルキー（➔P.212）で施錠･解錠します。
● メカニカルキーは半分ぐらい差し込んだ状態で止まります。

⚠ 注意

● グローブボックスを開けたまま走行しないでください。ブレーキをかけたとき収納した物が飛び出したり、ふたに当たるなどして、思わぬケガをするおそれがあります。
● ふたを開けるときは、ゆっくり開けてください。ふたを全開にしたとき、身体に当たるおそれがあります。

センターコンソールボックスについて

上段

- 助手席側のロックノブを引き上げ、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ふたを押してロックさせます。

下段

- 運転席側のロックノブを引き上げ、ふたを開けます。
- 閉めるときは、ふたを押してロックさせます。

⚠ 注意

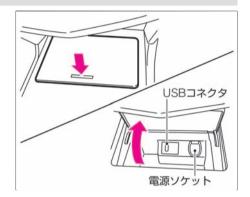
- コンソールボックスを開けたままにしないでください。開けたふたで思わぬケガをするおそれがあります。

知識

- コンソールボックス内には、電源ソケットがあります。
➔ 電源ソケット (P.196)

インストポケットについて

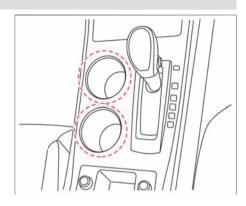
サングラスなどを収納することができます。

- 開けるときは、ふたを押します。
- 閉めるときは、ロックするまで押し戻します。

知識

- インストポケット内には、USBコネクタ★、電源ソケットがあります。
USBコネクタ★については別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
➔ 電源ソケット (P.196)

カップホルダー／ボトルホルダー

カップホルダー（前席）

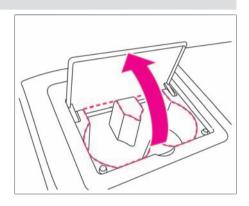
- センターコンソールにあります。

⚠ 警告

- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

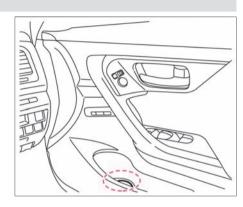
⚠ 注意

- 飲物の容器によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがあります。

カップホルダー（後席）

- リヤセンターアームレストにあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。

ボトルホルダー

- ボトルホルダーは、各ドア部にあります。

⚠ 警告

- 運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ビンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突などの事故のとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲物の容器によっては確実に固定されないことがあるため、こぼさないよう注意してください。
- 車室内のスイッチや画面などに飲み物をこぼさないようにしてください。故障や火災のおそれがありあます。

電源ソケット

カーアクセサリーの電源をとるときに使います。
電源ポジションがACCまたはONのとき使えます。

電源ソケットについて

- インストポケット内およびセンターコンソールボックス内にあります。
- ふたを開けて使います。
- 使わないときは、ふたを閉めます。
- 容量は、12V（ボルト）、10A（アンペア）、120W（ワット）です。
- 相手プラグを挿入したり抜いたりするときは、使用機器側の電源スイッチをOFFにするか、電源ポジションをOFFにしてください。

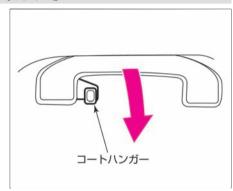
⚠ 注意

- 2マタソケットなどでタコ足配線をしないでください。
- 安全のため、消費電力120W以下のものを使ってください。
- 相手プラグをソケットの奥まできちんと挿入して使ってください。挿入が不完全だと、発熱し車両のヒューズが切れる場合があります。
- 使用中や使用直後はソケットや相手プラグが熱くなっていることがあるため、注意してください。
- シガーライターをソケットに差し込まないでください。
- ソケットに水をかけたり、指や金属などを入れたりしないでください。

アドバイス

- バッテリーあがりを防止するため、エンジンを始動した状態で使用してください。また、長時間使ったり、エアコン、ヘッドランプ、リヤデフォッガーなどを同時に使わないでください。

アシストグリップ／コートハンガーについて

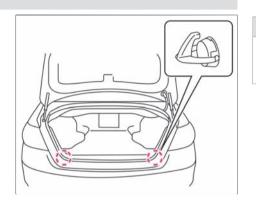
- アシストグリップは助手席および後席左右にあります。
- 後席右側にはコートハンガーが付いています。

注意

- コートハンガーにハンガーなど先のとがった物をかけないでください。SRSエアバッグが作動したときに飛ばされて、思わぬ傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- コートハンガーには1kg以上の物をかけないでください。

トランクフックについて

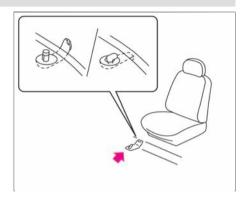
- 荷物の固定用としてネットなどをかけるときに使います。

アドバイス

- フックには大きな力がかからないようにしてください。破損するおそれがあります。

フロアカーペット

この車（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。
床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。

固定のしかた

- 床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。
- フロアカーペットを床の形状に合わせて敷き、取り付け穴に固定クリップのピンを通して確実に固定します。
- 車種により、固定クリップ･ピンの形状や、各シートごとに設定されている数量は異なります。詳しい固定方法は、日産販売会社にお問い合わせください。

⚠ 警告

- この車（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 運転席にフロアカーペットを敷くときは、次のことをお守りください。
  - 日産純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアカーペットは使用しない
  - フロアカーペットでペダルを覆わない
  - フロアカーペットを重ねて敷かない
  - フロアカーペットがずれないように固定クリップで確実に固定する
  - 運転席専用のフロアカーペットを使用する
  - フロアカーペットを前後さかさまにしたり、裏返して使用しない
- 運転する前にフロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に確認し、洗車後は必ず確認してくだ

⚠ 警告

さい。

● 運転する前、電源ポジションがOFFの状態でセレクトレバーが P レンジのときに各ペダルをいっぱいに踏み込み、フロアカーペットと干渉しないで運転に支障がないことを確認してください。

タイヤのパンク
パンクしたときは P.202
工具･ジャッキ･スペアタイヤについて P.203
タイヤ交換のしかた P.206
ドア／トランクが開かない
インテリジェントキーでドア／トランクが開かない P.212
始動しないとき
インテリジェントキーで始動できない P.213
バッテリーがあがったとき
ジャンプスタートのしかた P.214
各種警告機能について
警告灯がついたときは P.217
ブザー（警報音）が鳴ったときは P.220
くもりが取れない
窓ガラスのくもりの取りかた P.222
オーバーヒートしたとき
オーバーヒートしたときの対処方法 P.224
動かないとき
セレクトレバーが動かない P.226
雪道やぬかるみからの脱出のしかた P.227
けん引について P.228
故障したとき
発炎筒の使いかた P.232
故障したときの対処方法 P.233

パンクしたときは

交通の妨げにならず、安全に作業ができる地面（平坦な硬い場所）に停車します。

➔ 故障したときの対処方法 (P.233)

- 人や荷物を降ろします。
- 必要に応じて、非常点滅表示灯を点滅させ、停止表示板（または停止表示灯）を置きます。
- 工具、ジャッキ、スペアタイヤを取り出します。

  ➔ 工具･ジャッキ･スペアタイヤについて (P.203)

⚠ 注意

- タイヤ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- 走行直後はホイールナットが熱いため、やけどやケガをするおそれがあります。

工具･ジャッキ･スペアタイヤについて

格納場所

工具、ジャッキ、スペアタイヤは、トランクルームに格納されています。

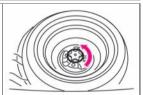
⚠ 注意

- 工具、ジャッキ、スペアタイヤを使ったあとは、元の場所に格納してください。車内に放置すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- 停止表示板（停止表示灯）、輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 工具の種類やジャッキ、発炎筒（➔P.232）などは、万一のときに困らないようにあらかじめ位置を確認しておいてください。

スペアタイヤの取り出しかた

1	カーペットを取り出します。	
2	工具が収納されているボードを取り出します。	
3	タイヤを固定しているクランプをゆるめてタイヤを取り出します。 ※スペアタイヤを格納するときは、 取り出したときと逆の手順で行ってください。	

⚠ 注意

- スペアタイヤの空気圧はときどき点検してください。また、年に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。長期間放置すると空気圧が減り、万一のとき使用できないことがあります。
  スペアタイヤの空気圧は420kPa（4.2kgf/cm2）です。
- タイヤはゴム製品の止め、徐々に劣化します。安全を確保するため、5～7年を目安に必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社にご相談ください。
- スペアタイヤを取り付けたときは、タイヤ接地部のたわみを確認してください。たわみが大きいときは空気圧が不足しています。すみやかに空気圧を調整してください。
  空気圧が不足したまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 間違った使いかたをすると、思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  – スペアタイヤおよびホイールはこの車専用です。他車のスペアタイヤを使っ

⚠ 注意

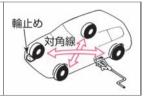
たり、他車に使わないでください。
- スペアタイヤに交換したときは、100km/h以下で走行してください。
- スペアタイヤには、タイヤチェーンは取り付けられません。雪道、凍結路で前輪がパンクしたときは、スペアタイヤを前輪に使わず、後輪に付け、外した後輪を前輪に取り付けてください。
- スペアタイヤに交換したときは、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。

アドバイス

- スペアタイヤはクランプでしっかりと固定してください。ゆるんでいると、走行の妨げになります。
- スペアタイヤに交換すると、車高が少し低くなります。地面の突起物などを乗り越えるときは、車体が接触しないように注意してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤを交換する前に

1	ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。 輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。	
2	スペアタイヤをジャッキ近くの車体の下に置きます。	
3	ホイールナットレンチで、全てのナットを反時計回りに約1回転ゆるめます。	

⚠ 注意

- やむをえず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。

アドバイス

- タイヤを接地状態にして行います。

知識

- 輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで代用できます。
- スペアタイヤを置くときは、ラベル貼付側を上にしてください。

タイヤ交換のしかた

ジャッキアップをする前に

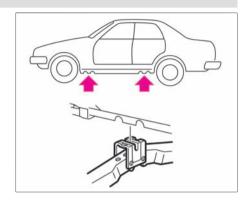
⚠ 警告

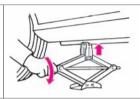
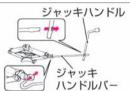
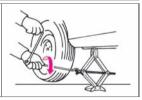
- ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らないでください。
  ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。
- ジャッキアップ中は、エンジンを始動しないでください。車が発進し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他車のジャッキは使わないでください。また、車載されたジャッキは他車に使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換またはタイヤチェーンの脱着以外には使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。柔らかい地面の上では、ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。
- 使用前にパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーをPにしてください。
- 輪止めなどで車を固定してください。
- ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
- 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

ジャッキアップポイント

- ジャッキアップポイント以外のところにはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。

ジャッキアップのしかた

1	ジャッキを手で回し、ジャッキの溝がジャッキアップポイントの中央に入るまで上げます。	
2	ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。	
3	ジャッキハンドルを回して、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキアップします。	

注意

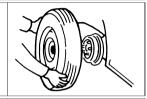
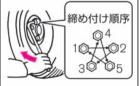
- ジャッキハンドルを回すときは、ジャッキハンドルバーを手でしっかり握って回してください。回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

- ジャッキアップポイント以外の所にはジャッキをかけないでください。車体が変形するおそれがあります。
- ジャッキハンドルバーは、確実にジャッキハンドルの穴に差し込んでください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

タイヤの交換

1	ナットを外し、パンクしたタイヤを外して車体の下に置きます。	
2	ハブの取付面とホイール裏側の取付面を布でよくふき、スペアタイヤを取り付けます。	
3	ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるくらいまで、時計回りに回して締め付けます。	
4	ナットを、図の順序で2～3回に分けて締め付けます。	

⚠ 注意

- 取付面が汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤが外れるおそれがあります。
- スペアタイヤは、ラベル貼付側が外側になるように取り付けてください。逆に付けると他の部品と当たり、思わぬ故障につながるおそれがあります。
- ナットを取り付けるときは、ナットやボルトにオイルやグリースなどを塗らないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。
- ジャッキを下げるときは、ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを両手でしっかり握って回してください。回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。
- タイヤを取り付けてしばらく走行したあと、ナットのゆるみや車体の振動などの異常がないか確認してください。

次のページに続く

前のページから

5	ジャッキを下げます。 さらにナットを手順4の締め付け順序で十分に締め付けます。 **ホイールナット締め付けトルク** **108N·m（11kg·m）**	
6	パンクしたタイヤや使用した工具、ジャッキなどをトランクルームに格納します。	

アドバイス

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
- ホイールナットレンチを足で踏んで回したり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。ボルトが折れるおそれがあります。
- スペアタイヤは、すぐに標準タイヤに戻してください。
- パンクしたタイヤをスペアタイヤ格納部に入れると、クランプは取り付けられません。また、トランクルームのボードが持ち上がった状態となります。

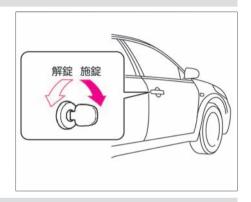
インテリジェントキーでドア／トランクが開かない

メカニカルキーによる施錠･解錠

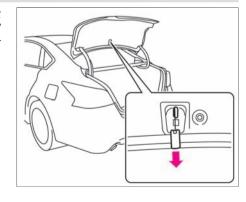
運転席ドアにある鍵穴にメカニカルキーを差し込んで回します。

- 車両前方にキーを回すと施錠します。
- 車両後方にキーを回すと解錠します。

知識

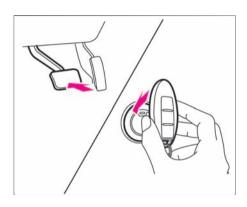
- メカニカルキーはインテリジェントキーに内蔵されています。

トランクの開けかた

バッテリーあがりなどにより、トランクを開けられなくなったときは、室内からリヤシートの背もたれを倒してから緊急用オープナーで開けることができます。

➔ 背もたれの倒しかた (P.46)

インテリジェントキーで始動できない

インテリジェントキーの電池が切れたときや、使用環境によりインテリジェントキーと車両の通信が正常に行われていないときは、次の手順で始動してください。

① ブレーキペダルを踏み、インテリジェントキーのロゴマーク裏面をエンジンスイッチに接触させます。（ブザーが“ピピッ”と鳴ります。）

② ブザーが鳴ってから10 秒以内に、ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチを押すと、電源ポジションが切り替わります。

アドバイス

- 左記の手順で始動できない場合は、早めに日産販売会社に連絡してください。

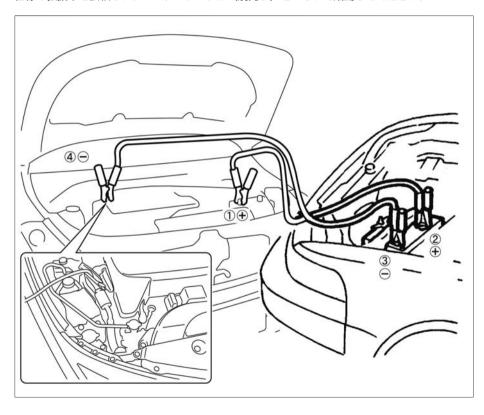
知識

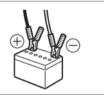
- 停止操作は通常と同じ手順です。
- ドアの施錠･解錠は、メカニカルキー（➔P.212）を使って行ってください。
- インテリジェントキーの電池が切れたときは、早めに電池を交換してください。
➔ インテリジェントキーの電池交換(P.140)

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ジャンプスタートのしかた

バッテリーがあがり、エンジンの始動ができなくなったときは、12V（ボルト）バッテリー仕様の救援車を依頼し、ブースターケーブル（別売り）をつないで始動してください。

ジャンプスタートのしかた

1	自車と救援車の電源ポジションをOFFにし、フードを開けます。 ➔ エンジンスイッチ (P.57) ➔ フードの開閉 (P.237)	
2	ブースターケーブル①を自車のバッテリーの(+)端子に接続します。	
3	手順2で接続したブースターケーブルの反対側②を救援車のバッテリーの(+)端子に接続します。	
4	もう1本のブースターケーブル③を救援車のバッテリーの(-)端子に接続します。	

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐときは、以下のことを必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  - ブースターケーブルを正しい順番と位置でつなぐ
  - ブースターケーブルを自車バッテリーの(-)端子に直接つながない
  - ブースターケーブルの(+)端子と(-)端子を接触させせない

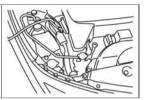
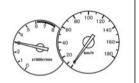
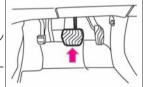
⚠ 注意

- ブースターケーブルのワニグチクリップは、車体に触れたり、他のワニグチクリップと接触しないように注意してください。
- ブースターケーブルは、エンジン始動時の振動で外れたりしないように、確実につないでください。
- ブースターケーブルをつなぐときや外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まないように注意してください。

 次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

前のページから

5	手順4で接続したブースターケーブルの反対側④を、自車のエンジン本体（バッテリーから離れたステーなど）に接続します。	
6	救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。	
7	自車のブレーキペダルを踏みながらエンジンスイッチを押し、エンジンを始動します。 ● エンジンをかけるときは、ヘッドランプやエアコンなどはOFFにしてください。 ● エンジンが始動しても、しばらくエアコンやオーディオを使わないでください。	
8	エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の手順で外します。	

アドバイス

- 押しがけでの始動はできません。
- 救援車には12Vバッテリー仕様の車両を使用してください。
- エンジンが始動できない場合には、一旦電源ポジションをOFFにして、10秒以上待ってから再始動してください。
- バッテリーがあがるとステアリングロックの解除が行えず、電源ポジションが切り替わらなくなります。すみやかにバッテリーを充電してください。

警告灯がついたときは

運転中に警告灯･表示灯が点灯または点滅したときは、次の対処方法に従ってください。
車両故障のおそれがない表示灯の説明は、➔ 表示灯 (P.110)をお読みください。

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
故障警告灯 （MIL）	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯または点滅します。	● 点灯または点滅したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
充電 警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● エンジン回転中、バッテリーの充電系統に異常があると点灯します。	● 点灯したときは、すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。
ブレーキ警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。（パーキングブレーキをかけているときは消灯しません） ● 電源ポジションがONのとき、次の場合は点灯し続けます。 – パーキングブレーキをかけたとき – ブレーキ液が不足しているとき – ブレーキシステムに異常があるとき	● パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除します。 ● パーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ただちに安全な場所に停車して、日産販売会社に連絡してください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んで停車してください。 ● ブレーキ液が正常でABS警告灯と同時に点灯したときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
ABS警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● ABSのシステムに異常があると点灯します。	● 電源ポジションをONにしても点灯しないとき、または点灯し続けるときは、高速走行や急ブレーキを避け、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

警告灯がついたときは

名称	点灯・点滅する条件	説明・対処方法
シートベルト 警告灯	● 電源ポジションがONのとき、シートベルトを着用していないと点灯します。 ● シートベルト警告灯は各座席ごとに点灯し、後席のシートベルト警告灯は、センターコンソール後方にあります。	● シートベルトを着用してください。
SRSエアバッグ 警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● 電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯または点滅を続けます。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
燃料残量 警告灯	● 電源ポジションがONのとき、燃料の残量が少ないと点灯します。	● すみやかに指定の燃料を補給してください。
VDC警告灯	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、数秒後に消灯します。 ● VDC作動中に点滅します。 ● エンジン回転中、VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。	● 点灯中は、左記のシステムの作動は停止しますが、それらのシステムのない普通の車として走行できます。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。
パワーステアリング 警告灯 PS	● 正常なときは、電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。 ● パワーステアリングのシステムに異常があると点灯します。	● すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。 ● 点灯しているときは、パワーステアリングは作動しませんが、マニュアルステアリングの性能は確保されています。この場合は、ハンドルの操作力が重くなります。

警告灯がついたときは

名称	点灯･点滅する条件	説明･対処方法
マスター ウォーニング	● メーターの警告灯や一部の表示灯が点灯したとき、またはアドバンスドドライブアシストディスプレイに一部の警告メッセージが表示されたときに同時に点灯します。	● 同時に点灯した警告灯または表示灯、警告メッセージを確認し、それぞれの対処方法に従ってください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ブザー（警報音）が鳴ったときは

車両盗難などを防ぐため、車内外でブザー（警報音）が鳴ることがあります。

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車外	ピピピピ…	ドアハンドルのリクエストスイッチを押したとき	電源ポジションはOFFになっているか インテリジェントキーを車室内またはトランクに置き忘れていないか いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前にリクエストスイッチを押していないか
		インテリジェントキーのドア施錠スイッチを押したとき	いずれかのドアが半ドアになっていないか ドアを閉める前に施錠スイッチを押してはいないか
		ドアを閉めたとき	無意識にリクエストスイッチを押していないか
	ピッピッピッ	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONまたはACCのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか
	ピー	ドアを閉めたとき	セレクトレバーがPになっているか
		トランクを閉めたとき	インテリジェントキーをトランク内または車内に置き忘れていないか
	キー(金属音)	走行中にブレーキペダルを踏んだとき	ディスクブレーキのパッド(摩擦材)が摩耗していないか 金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。そのまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

ブザー（警報音）が鳴ったときは

どこで音が鳴りましたか？	どんな音が鳴りましたか？	何をしたときに鳴りましたか？	確認すること
車室内	ピピピピッ、 ピピピピッ…	運転席ドアを開けたとき	電源ポジションがONまたはACCのままになっていないか
	ピピッピピッピピッ	ドアを閉めたとき	電源ポジションがONまたはACCのまま、インテリジェントキーが車外に持ち出されていないか
		エンジンスイッチを押したとき	インテリジェントキーを携帯しているか インテリジェントキーを携帯してもブザーが鳴るときは、インテリジェントキーの電池を交換してください
	ピピッピピッ…	運転席ドアを開けたとき	電源ポジションがONまたはACCのままになっていないか セレクトレバーをPにしているか

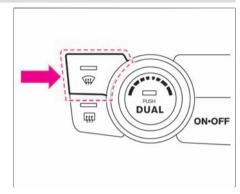
★：車両型式、オプションなどで異なる装備

窓ガラスのくもりの取りかた

デフロスタースイッチおよびリヤデフォッガースイッチは、電源ポジションがONのとき使えます。

デフロスタースイッチ

フロントの窓ガラスがくもるときは、デフロスタースイッチを押します。

- スイッチを押すとデフロスターから風が吹き出し、吸い込み口が外気導入になります。
  （表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。
  （表示灯が消灯）

注意

- デフロスタースイッチをONにしているときにエアコンの設定温度を低くすると、フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。

アドバイス

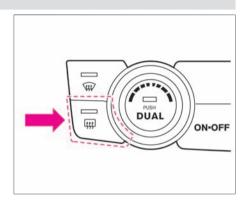
- デフロスタースイッチをONにしているときは、内気循環にしないでください。くもりが取れにくくなります。

知識

- エアコンがOFFのとき、デフロスタースイッチを押すとエアコンも自動的に作動します。

リヤデフォッガースイッチ

リヤの窓ガラスがくもるときは、リヤデフォッガースイッチを押します。

- スイッチを押すと約15分間作動します。（表示灯が点灯）
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。（表示灯が消灯）

アドバイス

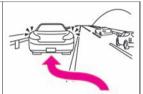
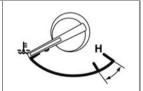
- 連続して長時間使用しないでください。消費電力が大きいためバッテリーあがりの原因になります。

知識

- リヤデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーヒーターも同時に作動します。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。
·水温計がオーバーヒートの範囲（➔P.100）を示したとき
·エンジンルームのすき間から蒸気が出ているとき

処置のしかた

1	ただちに安全な場所に停車します。	
2	エンジンをかけたままエンジンフードを開け、風通しをよくしてエンジンを冷やします。 万一、冷却ファンが回っていないときは、ただちにエンジンを止め、自然冷却してください。	
3	水温計がオーバーヒートの範囲より下がったら、エンジンを止めしばらく待ちます。 エンジンが十分冷えてから冷却水の量、ホースなどからの水漏れを点検してください。	
4	冷却水が不足しているときは、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補充してください。 補充後は、しっかりキャップを閉めてください。	

⚠ 警告

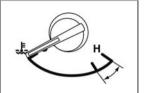
- エンジンルーム内は高温になっているため、エンジンフードを開けるときは十分に注意してください。
  やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- 蒸気が出ているときは、エンジンフードを開けないでください。やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
  エンジンを止め、蒸気が出なくなるまで待ち、エンジンフードを開けてください。
- エンジンが十分に冷えていないときは、ラジエーターやリザーバータンクのキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出し、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ただちに安全な場所に車を止めて処置してください。そのまま走行を続けると、エンジン故障の原因となり、火災につながるおそれがあります。

次のページに続く

オーバーヒートしたときの対処方法

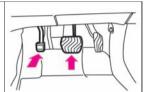
5	走行中、再度水温計がオーバーヒートの範囲を示したときは、手順1～手順4の作業を繰り返し行ってください。	
6	早めに日産販売会社で点検を受けてください。	

アドバイス

- 応急的に水だけを補充したときは、できるだけ早くエンジンクーラントを交換してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

セレクトレバーが動かない

万一セレクトレバーをPから動かせないときに使います。

1	安全のためパーキングブレーキをかけ、ブレーキペダルを踏み続けます。	
2	お手持ちのマイナスドライバーなどでふたを外します。 傷つきを防ぐため、ドライバーに布などを当てて外してください。	
3	メカニカルキーでシフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーのボタンを押して、セレクトレバーを動かします。 ➔ メカニカルキーによる施錠･解錠 (P.212)	

アドバイス

- セレクトレバーをPから動かせないときは、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

雪道やぬかるみからの脱出のしかた

砂地、雪道、ぬかるみなどから抜け出せなくなったときは、次の方法で脱出してください。

1

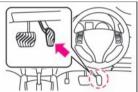
VDC OFFスイッチを押して、VDCをOFFにします。

➔ VDC OFFスイッチの使いかた (P.84)

2

車両の前後に障害物が無いことを確認し、ハンドルを左右に回して前輪の周囲をならします。
必要に応じ、タイヤの下に木材などをそえてください。

3

ゆっくりとアクセルペダルを踏み、前進または後退します。
周囲の安全を確認したうえで、前進と後退を繰り返してください。

⚠ 警告

- 周囲の人や物との衝突を避けるため、前進と後退を繰り返すときは、周囲に何もないことを確認してください。特に脱出の瞬間は、車両が前方または後方に飛び出すおそれがあります。
- 必要以上にアクセルペダルを踏み込まないでください。急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ぬかるみ、砂地、積雪路、側溝などから脱出するとき、過度にタイヤを空転させると、タイヤがバースト（破裂）したり駆動部品の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

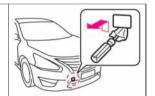
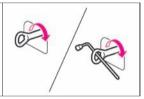
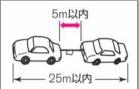
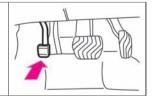
- 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに連絡してください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

けん引について

けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。

他車にけん引してもらうとき

1	先の細いお手持ちの工具を布などで覆い、フロントバンパーのカバーの溝に差し込んでカバーを外します。	
2	ホイールナットレンチを使って、けん引フックを穴に確実に取り付けます。 ➔ 格納場所 (P.203)	
3	自車および他車のけん引フックにロープを掛け、ロープ中央に30cm x 30cm以上の白い布を取り付けます。 ロープを掛けるときは、できるだけ同じ側で水平になるように掛けてください。	
4	エンジンを始動させ、セレクトレバーを**N**にし、パーキングブレーキを解除します。 エンジンが始動できないときは、電源ポジションをACCまたはONにしてください。	

⚠ 警告

- 電源ポジションがLOCKでバッテリーがあがると、ステアリングロックの解除ができなくなるため、このままの状態でけん引しないでください。けん引するときは救援車のバッテリーとつなぎ、電源ポジションをACCまたはONにしてハンドル操作ができる状態で行ってください。また、けん引中は電源ポジションをLOCKにしないでください。ハンドル操作ができなくなり危険です。

⚠ 注意

- エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作力が重くなりますので注意してください。
- 長い下り坂では、ブレーキが過熱して効かなくなり、事故につながるおそれがあります。このような場所でけん引するときは、レッカー車で引いてもらってください。
- けん引フックに指定以外のフックは絶対に使わないでください。フック

⚠ 注意

部が破損するおそれがあります。
- 前輪を上げてけん引するときは、電源ポジションをONにしないでください。VDCが作動しブレーキがかかることがあります。

アドバイス

- けん引してもらうときは、速度30km/h以下、距離30km以内にしてください。高速走行や長距離走行をすると、トランスアクスルが破損するおそれがあります。できるだけレッカー車、またはトレーラーを依頼してください。
- けん引中はロープをたるませないように、前の車の制動灯に注意してください。
- けん引フックは他車をけん引するために使用しないでください。

知識

- けん引が終わったら、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外します。

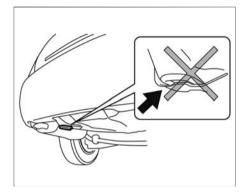
けん引について

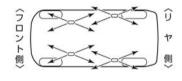
■ けん引するときは

- けん引が必要なときは、日産販売会社またはJAFなどのロードサービスに依頼してください。やむをえずけん引するときは、できる限り短距離の移動のみとしてください。
- 車両が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社へご連絡ください。
- 車両を運搬するときは、前輪または4輪を持ち上げてください。

■ 後ろ側のフックについて

- 後ろ側のフックは船舶輸送時の固定専用です。けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対に使わないでください。この車で他車をけん引することはできません。

アドバイス

- トレーラーなどで輸送するときは、車両下側のスロット穴を使い固定してください。
- フロント側はスロット穴の横（車両外側）に他目的の穴があります。掛け間違いに注意してください。
- リヤ左側を内側に引く場合は、燃料タンクに干渉するおそれがありますので注意してください。

発炎筒の使いかた

故障や事故などで緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

1	助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。	
2	本体を回しながらケースから引き抜きます。	
3	ケースのすり薬で先端をこすって点火します。	

警告

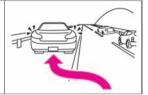
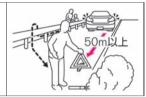
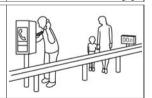
- お子さまには触らせないでください。いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- 可燃物の近くで使わないでください。引火する危険があります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけないでください。やけどをする危険があります。
- トンネル内では使わないでください。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり事故をまねくおそれがあります。このときは非常点滅表示灯を使ってください。

アドバイス

- 点火後は約5分間燃え続けます。
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。
- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

故障したときの対処方法

車両が故障したときは、次の手順を実施してください。

1	非常点滅表示灯で後続車に危険を知らせながら、できるだけ路肩に寄せて停車します。 路肩が無い場所では、可能な限り広いところまで自走します。	
2	同乗者をガードレールの外側などに避難させ、発炎筒（➔P.232）や停止表示板（停止表示灯）を車両の後方に置きます。 高速道路や自動車専用道路では、50m以上後方に置いてください。	
3	運転者もガードレールの外側などに避難します。 ガードレールの外側に避難ができない場所では、車両から離れてガードレールに身を寄せます。	
4	非常電話や携帯電話などで救援依頼をします。	

⚠ 注意

- エンジンが停止していると、ブレーキやパワーステアリングの倍力装置が働かなくなるため、極度にブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルの操作力が重くなりますので注意してください。

アドバイス

- 高速道路や自動車専用道路では、停止表示板（停止表示灯）の表示が法律で義務づけられています。
- ガードレールの外側などに退避するときは、停止車両への追突事故が発生したときに巻き込まれないように、車両の後方に避難してください。
- 非常電話は、高速道路上に1kmごとに設置されています。

点検･整備について

点検･整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
点検･整備については、別冊のメンテナンスノートをお読みください。

点検･整備の種類

- **日常点検**
  走行距離や使用時の状態から判断し、適切な時期にお客さまご自身で行う点検です。
  いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、においい、水もれ、油もれなど）
- **定期点検**
  1年ごとに実施する点検です。12か月点検および24か月点検があります。
- **その他の点検**
  日産自動車が指定している、新車時の点検や厳しい使われかたをした場合に必要な点検があります。

工具類の格納場所

工具、ジャッキ、スペアタイヤは、トランクルームに格納されています。

➔ 格納場所 (P.203)

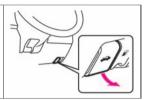
知識

- 点検･整備および保証の内容は、別冊のメンテナンスノートに詳しく記載されていますので、必ずお読みください。

エンジンルーム

エンジンルームを点検するときは安全な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけた状態でフードを開けます。

フードの開閉

1	運転席右下にあるフードオープナーを引きます。 フードの先端が少し浮き上がります。	
2	フード先端のすき間に手を入れ、レバーを横に押しながらフードを持ち上げます。	
3	閉めるときは、エンジンフードをゆっくり降ろし、左右の前端を押しつけ、確実にロックします。	

⚠ 警告

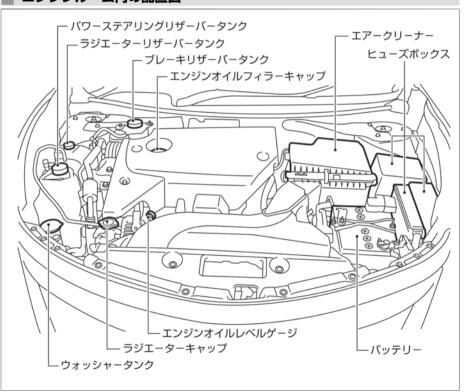
- 走行前に、フードが確実に閉まっていることを、必ず確認してください。ロックされていないと、走行中フードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 風が強いときに開けると、風にあおられますので、しっかり持ってゆっくり開けてください。
- フードを開けたときは、フードに頭などをぶつけないように注意してください。
- エンジンがかかっているとき、エンジンルーム内に手、衣服、工具などを入れないでください。思わぬケガをするおそれがあります。
- エンジン停止直後は、排気系部品、ラジエーターなどの高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- フードを閉めるときは、手などを挟まないように注意して降ろしてください。

アドバイス

- ワイパーアームを起こしたままフードを開けないでください。フードやワイパーを損傷します。

エンジンルーム内の配置図

⚠ 警告

- エンジンルーム内の作業をするときは、電源ポジションをOFFにし、エンジンが停止していることを確認してください。エンジン回転中に手、衣服、工具などを入れると思わぬケガをするおそれがあります。

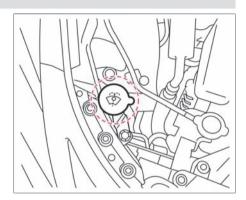
⚠ 注意

- 点検や清掃に使用した工具、布、紙類などを、エンジンルーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ウォッシャー液の補給

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給してください。

- ウォッシャー液が少なくなると、メーター内のディスプレイに警告表示します。
  警告表示されたときは早めに補給してください。
  ➔ アドバンスドドライブアシストディスプレイ (P.103)
- ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液を補給してください。
  ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。
- ウォッシャー液は日産純正ウインドーウォッシャー液をおすすめします。
  ➔ 交換油脂類 (P.278)
- メーター内のディスプレイに警告表示されると、BSW（後側方車両検知警報）★およびLDW(車線逸脱警報)★の作動が停止します。
  ➔ BSW（後側方車両検知警報）★ (P.85)
  ➔ LDW（車線逸脱警報）★ (P.94)

⚠ 注意

- ウォッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。
- BSW（後側方車両検知警報）およびLDW(車線逸脱警報)付車は、レンズを自動的に洗浄する機能にウォッシャー液を使用しています。ウォッシャースイッチを使わなくても、自動的に洗浄を行うため、メーター内のディスプレイに警告表示されたときはすみやかにウォッシャー液を補給してください。

アドバイス

- ウォッシャー液の代わりに石けん水などを入れないでください。塗装面がしみになるおそれがあります。

冷却水の濃度点検

- 冷却水の凍結を防ぐため、クーラントの濃度を点検してください。

クーラントの濃度	凍結温度
50%	約－35˚C

- 冷却水を補充･交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント(50%希釈品)をお使いください。
➔ 交換油脂類 (P.278)

アドバイス

- 工場出荷時は、50%にしてあります。
- 冷却水の点検･補充･交換は日産販売会社にご相談ください。

車が凍結したら

- 凍った部分にお湯をかけて氷を溶かしてください。溶けたらすぐにふき取ってください。

アドバイス

- ドアなどの開閉部分を無理に開けないでください。ゴムがはがれたり損傷するおそれがあります。
- ワイパー、ドアミラー、パワーウインドーなどを無理に動かさないでください。装置が損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結するおそれがあります。

靴の雪を落とす

- 乗車時、靴に付いた雪はよく落としてください。ペダル類の操作時に滑ったり、窓ガラスのくもりの原因となります。

窓ガラスの雪や霜を落とす

- プラスチックの板などを使って、ガラスを傷つけないように落としてください。

足回りの着氷を落とす

- 足回り（ブレーキホース、フェンダー裏側など）に付着した氷塊を、部品を破損しないように注意して取り除いてください。

滑りやすい路面の走りかた

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離を取り、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。
  ➔ タイヤチェーンについて (P.249)

⚠ 警告

- ルーフに積もった雪は落としてください。窓ガラスに雪が滑り落ちると視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行中の雪の付着に注意

- ブレーキに付着した雪が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ときどきブレーキの効き具合を確認してください。効きが悪いときは、前後の車との距離を十分とり、低速走行で効きが回復するまでブレーキペダルを軽く踏んでください。
- フェンダーの裏側に付いた雪が積もり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。時々確認して雪を取り除いてください。

長時間駐車するとき

- セレクトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけずに輪止めをしてください。パーキングブレーキをかけると、ブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- 軒下や樹木の下には駐車しないでください。落雪で車が損傷するおそれがあります。
- 雪が降りそうなときや降雪時にはワイパーアームを起こしておいてください。ブレードと窓ガラスが凍結し、破損するおそれがあります。

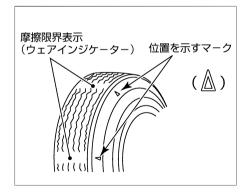
タイヤが摩耗･損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができず乗り心地も損なわれます。
日常的に点検を行ってください。

タイヤの点検項目

■ タイヤ空気圧の点検

- タイヤの空気圧は、走行前のタイヤが冷えているときに点検･調整してください。タイヤ接地部のたわみが大きいときは、空気圧が不足しています。すみやかに調整するか、日産販売会社にご相談ください。偏平タイヤの空気圧はたわみ状態ではわかりにくいため、タイヤエアゲージを使用し点検してください。
- タイヤ空気圧は自然に少しずつ低下します。月に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。
- タイヤ空気圧は走行に伴い約1割程度上がることがあります。
- タイヤ空気圧は運転席ドア開口部に表示してあります。

■ タイヤ摩耗の点検

- 摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が表れたら、タイヤを交換してください。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧が不足したまま走行すると、バースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。5～7年を目安に必ず点検してください。

タイヤ・ロードホイールを交換するとき

- タイヤを交換するときは、４輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示を参照してください。
- ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは巻末のサービスデータに記載してあります。

注意

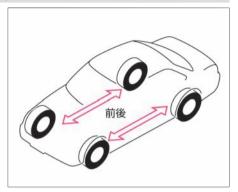
- 指定サイズ以外のタイヤ・ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ・ロードホイールを取り付けると、安全性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを交換するときは、4輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
  径が異なるタイヤを装着すると、車の機構に無理がかかり、重大な故障につながります。また、VDCシステムが正常に作動しないことがあります。次のようなタイヤの装着はしないでください。回転差を吸収する機構に無理がかかり、過熱し火災につながるおそれがあります。
  – 摩耗差の大きいタイヤの装着
  – 前輪または後輪だけに冬用タイヤを装着
  – サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着
- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

メンテナンス

アドバイス

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミロードホイールには荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実に取ってください。

タイヤの位置交換（ローテーション）

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。

注意

- タイヤ間に著しい摩耗差があったり、空気圧が規定値より著しく異なると、車の性能が十分に発揮できなくなり、安全性を損なったり故障の原因になります。

アドバイス

- タイヤの位置交換と同時に空気圧も点検してください。
- タイヤの位置交換については、日産販売会社にご相談ください。

知識

- 車載のジャッキを使って、タイヤの交換を行うときは、スペアタイヤを使って1輪ずつ交換してください。

スペアタイヤについて

スペアタイヤは応急用タイヤを搭載してあります。
タイヤがパンクしたときに、応急用として一時的に使うタイヤです。

➔ 格納場所 (P.203)

⚠ 注意

- スペアタイヤの空気圧はときどき点検してください。また、年に一度はタイヤエアゲージを使用してタイヤ空気圧が適正であるか点検してください。長期間放置すると空気圧が減り、万一のとき使用できないことがあります。
  スペアタイヤの空気圧は420kPa（4.2kgf/cm2）です。
- タイヤはゴム製品のため、徐々に劣化します。安全を確保するため、5～7年を目安に必ず点検を受けてください。点検については日産販売会社にご相談ください。

ジャッキアップ

ジャッキは、トランクルームに格納されています。

➔ 格納場所 (P.203)
➔ ジャッキアップをする前に (P.207)

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは必ず前2輪に装着してください。

装着の前に

安全に作業できる平坦な場所に停車してください。
パーキングブレーキをかけエンジンを停止します。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）を置きます。

- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。タイヤチェーンはお客様の車に適合した日産純正品をおすすめします。適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

タイヤチェーンについて

装着のしかた

●タイヤチェーンは付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。

注意

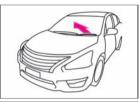
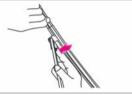
- 不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

アドバイス

- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールを傷つけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくなります。
- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなります。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、次の手順に従ってください。

ワイパーブレードの交換のしかた

1	ワイパーアームを起こし、ブレードを少し傾けます。	
2	ワイパーブレードのツメを押したままにします。	
3	ワイパーブレードを矢印の方向に動かして取り外します。	
4	新しいワイパーブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ワイパーブレードが確実に固定されていることを確認します。	

⚠ 注意

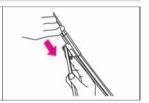
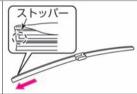
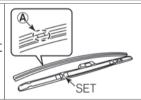
- 交換するときは、ワイパーアームおよびワイパーブレードがガラスに当たらないよう気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。

アドバイス

- ワイパーブレードに大きな力を加えて変形させないでください。ふき取りにくくなったり、破損するおそれがあります。

メンテナンス

ワイパーゴムの交換のしかた

1	ワイパーアームからワイパーブレードを取り外します。	
2	ワイパーゴムを矢印方向にスライドし、取り外します。	
3	取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で行います。 ● ワイパーゴムのストッパーがない方からブレードに沿って差し込みます。 ● ワイパーゴムのⒶ部をワイパーブレードの「SET」の位置で確実に押し込み、固定します。	

知識

● ワイパーゴムに石けん水を塗ると脱着しやすくなります。

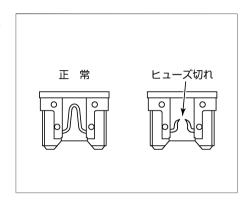
ヒューズ

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
故障の状況から、関係するヒューズを確認してください。

ヒューズを確認する前に

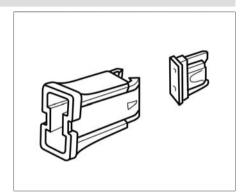
ヒューズが切れているときは、同じ容量のヒューズと交換します。

■ ヒューズボックスの位置

- ヒューズボックスはエンジンルームと運転席足元にあります。
- 各ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたの裏側に表示してあります。

警告

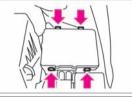
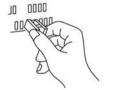
- 規定容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使わないでください。電装システムの故障や、配線などが過熱して火災につながるおそれがあります。

ヒューズ抜きについて

● 運転席足元にヒューズ抜きがあります。
➔ ヒューズの交換のしかた（車室内）(P.256)
● 電源ポジションをOFFにしてから、ヒューズ抜きをヒューズに差し込んで引き抜き、ヒューズが切れていないか確認します。

アドバイス

● 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。
● ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

ヒューズの交換のしかた（エンジンルーム）

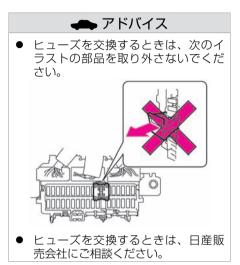
1	電源ポジションをOFFにし、フードを開けます。 ➔ フードの開閉 (P.237)	
2	ツメを押しながら持ち上げ、ふたを外します。	
3	運転席足元のヒューズボックスにあるヒューズ抜きを使ってヒューズを取り外します。 ➔ ヒューズの交換のしかた（車室内）(P.256)	
4	新しいヒューズと交換します。 交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ヒューズの交換のしかた（車室内）

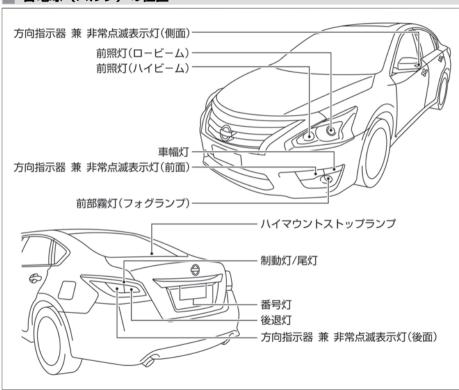
1	電源ポジションをOFFにします。	
2	手前に引いてふたを外します。	
3	ヒューズ抜きでヒューズを取り外します。	
4	新しいヒューズと交換します。交換したあとは、確実に差し込まれていることを確認してください。	

アドバイス

- ヒューズを交換するときは、次のイラストの部品を取り外さないでください。

- ヒューズを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

電球（バルブ）交換

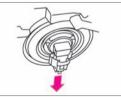
外装ランプが点灯しないときは、バルブ切れが考えられます。
バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

各電球（バルブ）の位置

⚠ 注意

- バルブ交換は、エンジンルームやバルブが冷えた状態で行ってください。やけどをするおそれがあります。
- バルブ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。
- ステーなどの端で指や腕をケガしないように十分注意してください。
- バルブは点灯中、表面が高温になります。バルブが正しく取り付けられていないと、走行中にバルブが外れ、周辺の部品に接触するなどし、発熱、発火につながるおそれがあります。

アドバイス

- 外した部品は確実に取り付けてください。水が入り故障の原因になるおそれがあります。
- バルブに油が付着したときは柔らかい布などでふき取ってください。また、素手でガラス部分に触れないでください。バルブの寿命が短くなったりバルブが破損するおそれがあります。

ロービーム（ハロゲンヘッドランプ付車）

1	作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。	
2	お手持ちの工具でネジ（トルクス）およびクリップを外し、フェンダーカバーをめくります。	
3	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
4	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

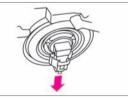
ハイビーム（運転席側）

1	クリップを外し、ウォッシャータンクインレットを引き抜きます。	
2	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
3	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

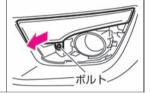
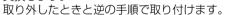
ハイビーム（助手席側）

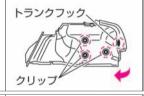
1	ハンドルを右に切って、タイヤを傾けます。	
2	お手持ちの工具でネジ（トルクス）およびクリップを外し、フェンダーカバーをめくります。	
3	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
4	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

フォグランプ

1	作業スペースを確保するため、作業する側と反対方向にハンドルを切ります。	
2	お手持ちの工具でネジ（トルクス）およびクリップを外し、フェンダーカバーをめくります。	
3	コネクターを取り外します。 （ツメを押しながら外します。）	
4	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

車幅灯／方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前面）

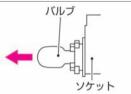
1	フロントバンパーフィニッシャーを取り外します。	
2	ボルトを外し、ランプ本体を手前に引いて外します。	
3	ソケットを矢印の方向に回して引き抜き、バルブを交換します。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

後退灯／方向指示器 兼 非常点滅表示灯（後面）

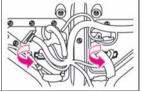
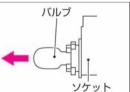
1	クリップを外し、トランクリヤフィニッシャーを取り外します。	
2	クリップおよびトランクフックを外し、トランクサイドフィニッシャーをめくります。	
3	ナットおよびコネクターを外します。	
4	リヤコンビランプを手前に引いて取り外します。	

次のページに続く

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

前のページから

5	バルブのソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
6	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

メンテナンス

番号灯

1	トランクリッドフィニッシャー下側のクリップを6個取り外します。	
2	トランクリッドフィニッシャーをめくります。	
3	ソケットを矢印の方向に回して引き抜きます。	
4	古いバルブを引き抜き、新しいバルブをソケットに取り付けます。 取り外したときと逆の手順で取り付けます。	

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

その他の電球（バルブ）

以下の電球が点灯しないときは日産販売会社で点検を受けてください。

- **ロービーム（キセノンヘッドランプ付車)**
- **方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）（LED）**
- **制動灯／尾灯（LED）**
- **ハイマウントストップランプ（LED）**

その他の点検整備について

エンジンオイルについて

- 交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。また、指定のエンジンオイルについては、巻末のサービスデータをお読みください。
  ➔ 交換油脂類 (P.278)
  詳しくは日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 適切なオイル交換が行われないと、エンジンの破損や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- オイルの点検をしたあとは、オイルレベルゲージを確実に差し込んでください。 オイルレベルゲージが根元まで差し込まれていないと、オイルが噴き出し火災の原因になるおそれがあります。
- エンジンオイルフィラーキャップは確実に閉めてください。走行時にキャップが外れエンジンオイルが噴き出すと、火災の原因になるおそれがあります。

バッテリーについて

- バッテリーのメンテナンスについては、メンテナンスノートをお読みください。
  詳しくは日産販売会社にご相談ください。

⚠ 警告

- バッテリーを充電するときは換気を十分に行い、火気は近づけないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な傷害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに 多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、医師の診療を受けてください。

⚠ 注意

- バッテリーの(+)側ターミナル端子が周辺の金属と接触しないようにしてください。接触するとショートして火災の原因となるおそれがあります。また、バッテリーの端子の締め付けが緩いと、配線などが過熱、焼損し、火災につながるおそれがあります。
- バッテリーを交換するときは、必ず同じサイズ（型式）に交換し、動かないようにしっかりと固定してください。しっかり固定できていないと、ショートなどの原因となり火災につながるおそれがあります。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

洗車のしかた

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

洗車のしかた

- 塗装面に付着した汚れをそのままにすると、変色やサビの原因となります。次のような場合は、すぐに洗車してください。
  - ばい煙、虫の死がいや鳥のふん、樹液、鉄粉、コールタールなどが付着したとき
  - 海岸地区、凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ほこり、汚れがひどいとき

⚠ 注意

- 下回りを洗うときはケガをしないように注意してください。
- エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や不調などの原因になるおそれがあります。 また、電装品などに水がかかると、故障したり電気部品のショートにより車両火災につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

- ケミカル用品などは用途により使い分けが必要です。用途にあった物をお使いください。
- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。
- 硬いブラシや、たわしなどは使わないでください。塗装面を傷つけるおそれがあります。
- 寒冷時に洗車をするときは、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置に水が入ると凍結し、走行できなくなるおそれがあります。

洗車のしかた

■ 水洗いするとき

① 水をかけながら下回りの汚れを洗い流します。
② 水をかけながら塗装面の高い位置から低い位置の順にセーム皮や柔らかいスポンジなどで汚れを落とします。汚れがひどいときは、ボディーシャンプーなどを使い、その後十分に水で洗い流します。
③ はん点が残らないように水をふき取ります。

■ 洗車機を使うとき

- 自動洗車機を使用するときは、ドアミラー(➔P.54)を格納してください。
- 高圧（コイン）洗車機を使用するときは、洗車ノズルと車体の距離を十分離して洗車してください。

アドバイス

- 自動洗車機で洗車すると、ブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。
- ドアガラスのまわりに高圧ノズルを近づけないでください。車内に水が漏れるおそれがあります。

■ カメラレンズのお手入れ

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませてふき取ります。さらに乾いた柔らかい布でふき取ります。

アドバイス

- カメラレンズをアルコール、ベンジン、シンナーなどでふかないでください。変色などの原因になります。

ワックスをかけるとき

塗装面の変色やサビなどを防止するために、適切なお手入れが大切です。

- ワックスがけは 1 か月に 1 回程度、または水はじきが悪くなったときに行ってください。かけかたは普通塗装車、メタリックおよびパール塗装車とも同じです。

■ ワックスのかけかた

① 塗装面の汚れを洗車などで取り除きます。
② 塗装面が冷えているとき（体温以下が目安）にワックスをかけます。かけかたはワックス容器に記載してある説明に従ってください。

■ ワックスの選びかた

- コンパウンド（研磨剤）の入っていない、塗装に適したワックスを使ってください。日産純正カーワックスをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 塗装されていないバンパー、スポイラーなどの樹脂部品には、ワックスを使用しないでください。ムラになることがあります。
- コンパウンド（研磨剤）の入ったワックスを使うと、塗装面の光沢や水をはじく特性が失われることがあります。
- カメラのレンズ部にワックスを付けないでください。ワックスが付いた場合は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、ふき取ってください。

アルミロードホイールのお手入れ

- 中性洗剤を含ませたスポンジなどを使い、汚れを落としてください。日産純正クリーナーをおすすめします。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

軽い補修のしかた

- 塗装面の小さい傷はタッチアップペイントを使い、早めに傷部を補修してください。サビの発生を防ぎ、塗装面を長持ちさせます。

アドバイス

- 変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあるため、次のことをお守りください。
  - 強酸性、強アルカリ性の洗剤は使わない
  - 洗剤はホイールの表面が冷えているときに使用する（体温以下が目安）
  - 洗剤を使用したあとは、早めに十分洗い流す
  - 硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない

カーペットの汚れ取り

- 電気掃除機でほこりを取り除き、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。フロアカーペットを取り外したときは、敷き直すときにフロアカーペットがずれないように固定クリップで正しく確実に固定してください。

➔ フロアカーペット (P.199)

⚠ 注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

内装のお手入れ

布、ビニールレザーの汚れ取り

- 中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。汚れがひどいときは、日産純正ルームクリーナーなどで汚れを落としてください。

注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。

本革シートのお手入れ★

通常のお手入れ

ガーゼなど柔らかい布でふきます。

水溶性の汚れを取るとき

柔らかい布をぬるま湯に浸し、固くしぼってからふき取ります。次に乾いた柔らかい布でふきます。

油性の汚れを取るとき

① ぬるま湯に中性洗剤を溶かし（濃度2～3%）、柔らかい布に含ませ汚れを取ります。
② 真水に浸した布を固くしぼってふき取ります。
③ 乾いた柔らかい布でふき、風通しのよい日陰で乾燥させます。

注意

- 車室内に水をかけないでください。オーディオやスイッチ類、フロア下の配線や電気部品などに水がかかると故障するおそれがあります。

アドバイス

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶液を使わないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので確認してから使ってください。
- 本革シートは、直射日光により変色、変質することがあるため、日よけに心がけてください。
- 本革シートが水などでぬれたときは早めにふき取ってください。皮革が硬化、収縮する原因となります。

知識

- 本革シートのお手入れ用品（クリーナーなど）のご購入については、日産販売会社にご相談ください。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

リヤウインドーの清掃

- ガラスの内側を清掃するときは、熱線やアンテナ線を切らないように水を含ませた柔らかい布で熱線やアンテナ線にそって軽くふいてください。
- ガラスクリーナー、洗剤などは使わないでください。

メーター表面の汚れ取り

- 柔らかい布を真水に浸し、固くしぼってからふき取ります。

アドバイス

- 乾いた布やウエットティッシュなどを使用しないでください。傷がついたり、変色の原因になります。
- ワックスやコーティング剤、油などが付着した布ではふかないでください。変色の原因になります。

点検値

項目		点検値
補機ベルト		調整不要※1
ブレーキペダル※2	遊び	3～11mm
	床板とのすき間 約490N（50kg）で踏んだとき	138mm以上
パーキングブレーキ	踏みしろ 約196N（20kg）で踏んだとき	5～6ノッチ

※1: 補機ベルトは、ベルトオートテンショナー（自動張力調整機構）を採用しており、ベルト張力調整は不要です。また、パワーステアリングおよび冷却ファンは、ベルト駆動ではないためベルトの張力調整は不要です。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。
※2: ブレーキが正常に作動しないときは、必ず日産販売会社で点検を受けてください。また、ブレーキペダルの床板とのすき間の調節が必要なときも、日産販売会社にご相談ください。

交換油脂類

■ エンジンオイルについて

項目	適用	規定量（ℓ）※1		指定油脂（規格）
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換	
エンジンオイル	QR25DE	4.3	4.6	日産純正SNストロングセーブ･X※2 （API: SN、SAE: 0W-20） 日産純正SNエクストラセーブ･X （API: SN、SAE: 0W-20） ※外気温に適した粘度（SAE規格）のものをご使用ください。

※1： 規定量は目安です。
※2： 工場出荷時に充てんされているオイルです。

■ その他の交換油脂類について

項目	適用	規定量（ ℓ ）※1	指定油脂（規格）
CVTフルード	全車	7.4	日産純正CVTフルードNS-3※2
ブレーキフルード	全車	—	日産純正ブレーキフルードNo.2500（DOT3）
エンジン冷却水	全車	8.1※3	日産純正スーパーロングライフクーラント ※4（エンジンクーラント）
ウォッシャー液	全車	4.1	日産純正ウインドウォッシャー液 ● 外気温に応じて濃度を調節してください。

※1： 規定量は目安です。
※2： 必ず日産純正CVTフルードNS-3を使用してください。日産純正CVTフルードNS-3以外のフルードを使用するとCVTが破損するおそれがあります。
※3： リザーバータンクのMAXレベル容量（0.8 ℓ ）を含みます。
※4： 車両故障につながるおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水は、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

■ 指定のエンジンオイルについて

API 規格またはILSAC 規格に適合した指定油脂をお使いください。 なお、規格適合油にはイラストのマークが表示されています。

日産純正銘柄のご使用をおすすめします。

交換時期についてはメンテナンスノートをお読みください。 詳しくは日産販売会社にご相談ください。

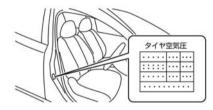
APIマーク　ILSACマーク

電球（バルブ）の容量

<table>
<tr><th colspan="3">電球（バルブ）</th><th>容量（V-W）</th><th>バルブタイプ</th></tr>
<tr><td rowspan="4">前照灯（ヘッドランプ）</td><td rowspan="2">キセノンヘッドランプ付車</td><td>ロービーム</td><td>キセノンバルブ12-35</td><td>D2S</td></tr>
<tr><td>ハイビーム</td><td>12-65</td><td>H9</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ハロゲンヘッドランプ付車</td><td>ロービーム</td><td>12-55</td><td>H11</td></tr>
<tr><td>ハイビーム</td><td>12-65</td><td>H9</td></tr>
<tr><td colspan="3">前部霧灯（フォグランプ）</td><td>12-55</td><td>H11</td></tr>
<tr><td colspan="3">車幅灯</td><td>12-5</td><td>W5W</td></tr>
<tr><td colspan="3">番号灯</td><td>12-5</td><td>W5W</td></tr>
<tr><td colspan="3">制動灯／尾灯</td><td>—</td><td>LED</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハイマウントストップランプ</td><td>—</td><td>LED</td></tr>
<tr><td colspan="3">後退灯</td><td>12-16</td><td>W16W</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">方向指示器 兼 非常点滅表示灯</td><td>前面、後面</td><td>12-21（アンバー）</td><td>WY21W</td></tr>
<tr><td>側面</td><td>—</td><td>LED</td></tr>
</table>

メンテナンス

タイヤ・ロードホイールサイズ

タイヤサイズ	ロードホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D.	インセット
215/55R17	17 x 7-1/2J	114.3mm（5穴）	50mm
215/60R16	16 x 7J		50mm
T135/70D16	16 x 4T		30mm

※　タイヤの空気圧は運転席ドアの開口部に表示してありますので、確認してください。

車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下システムの各コンピューターはEDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。
以下システムの各コンピューターは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDRで車両が衝突したときの車両データを記録･蓄積しています。

■ SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識

- EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。
なお、日産自動車および日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

A

A/C
インテリジェントエアコンシステム....... P.165
オートエアコン.. P.161
ABS
ABS... P.81
ABS警告灯.. P.105

B

BSW（後側方車両検知警報）........................... P.85
BSW（後側方車両検知警報）表示.......... P.113
OFFスイッチ.. P.88

E

ECOモード.. P.71
ECOモードスイッチ.................................... P.71
エコドライブレポート................................. P.73
エコモード設定.. P.119
EDR（イベントデータレコーダ）................. P.283
ELR（緊急固定）付3点式シートベルト.......... P.48

I

ISO FIX対応チャイルドシート用アンカー...... P.29

L

LDW（車線逸脱警報）..................................... P.94
LDW（車線逸脱警報）表示...................... P.112
OFFスイッチ.. P.96

M

MOD（移動物検知）の設定......................... P.119

O

ODOメーター.. P.102

S

SPORT表示灯.. P.110
SRSエアバッグ... P.10
SRSエアバッグ警告灯.................................. P.105

T

TRIP（トリップメーター）............................ P.102

V

VDC.. P.82
VDC OFFスイッチ.. P.84
VDC OFF表示灯... P.110
VDC警告灯.. P.105

ア

アームレスト.. P.45
アウターミラー（ドアミラー）........................ P.54
アシストグリップ... P.197
アドバンスドドライブアシスト
ディスプレイ.. P.112
アラーム
インテリジェントキー................................ P.220
設定... P.119
メーター
（ドライブインジケーター）................... P.124
アルミロードホイールのお手入れ................. P.272
アンサーバック機能...................................... P.135

イ

イベントデータレコーダ（EDR）…… P.283
イルミネーションコントロール…… P.103
インストポケット…… P.192
インテリジェントエアコンシステムについて…… P.173
インテリジェントキー
- エンジンイモビライザー（盗難防止装置）…… P.58
- キー…… P.134
- 作動範囲（エンジン始動）…… P.64
- 作動範囲（施錠、解錠）…… P.148
- 始動しないとき…… P.213
- 電池交換のしかた…… P.140
- ドアの施錠･解錠…… P.141
- トランクの解錠…… P.149
- メカニカルキー機能…… P.212
- リモコンによる施錠･解錠…… P.143

インテリジェントキー［警報が鳴ったとき］…… P.220
インナーミラー（ルームミラー）…… P.53

ウ

ウインカー（方向指示器）…… P.178
ウインドーガラス（パワーウインドー）…… P.154
ウォーニング（警告灯）…… P.105
ウォッシャー
- ウォッシャー液（規定量）…… P.278
- ウォッシャー液の補給…… P.240
- スイッチ…… P.181

動かないとき…… P.226
動けなくなったときは…… P.233
運転
- 運転するときに注意すること…… P.34
- 正しい運転姿勢について…… P.36

運転支援（車両情報）…… P.115
運転席オートドライビングポジションシート…… P.41

エ

エアコン…… P.170
- インテリジェントエアコンシステム…… P.165
- インテリジェントエアコンシステムについて…… P.173
- オートエアコン…… P.161
- 各スイッチの名称と機能…… P.161, P.165

エアコンディショニングシート…… P.183
エアコンの使いかた
- 吹き出し口…… P.169

エアバッグ
- SRSカーテンエアバッグシステム…… P.21
- 運転席･助手席SRSエアバッグシステム…… P.14
- 運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム…… P.19
- SRSエアバッグ…… P.10
- SRSエアバッグ警告灯…… P.105

ABS
- ABS…… P.81
- ABS警告灯…… P.105

ECOモード…… P.71
エンジン
- エンジンオイル…… P.278
- エンジンが始動しないときは…… P.213
- エンジンスイッチ…… P.57
- エンジンのかけかた…… P.64
- エンジンフード…… P.237
- エンジンルームから蒸気が出ているとき…… P.224
- エンジンルーム内配置図…… P.239

エンジンイモビライザー
- エンジンイモビライザー…… P.58
- 表示灯（セキュリティーインジケーター）…… P.110

エンストして始動できなくなったとき…… P.233

オ

オイル…… P.278
オーディオ（車両情報）…… P.115
オートエアコン…… P.161

オートマチック車の運転のしかた P.66
オートライトシステムについて P.176
オートレベライザー P.180
オートロック機能 P.135
オーバーヒートしたときは P.224
オーバーヘッドコンソール P.189
お子さまを乗せるときは P.23
オドメーター（積算距離計） P.102

カ

外気温表示 P.112
外装のお手入れ P.269
カギ P.134
各種警告灯について P.217
ガソリン（使用燃料、燃料補給口、タンク容量） P.152
カップホルダー P.193
カメラ（リヤビューカメラ） P.93
ガラスのお手入れ（リヤウインドー） P.276
ガラスルーフ P.156
寒冷時のメンテナンス P.241

キ

キー
　インテリジェントキー P.134
　メカニカルキー P.212
　リモートコントロールエントリー機能 P.143
キー連動室内照明システム P.186, P.188
キックダウン P.67

ク

空気圧（タイヤ） P.244, P.282
くもりが取れないときは P.222
クラクション（ホーン） P.52
クリアランスランプ（車幅灯）
　電球（バルブ）交換 P.257
　電球（バルブ）容量 P.281
クリープ現象 P.66
クリーンフィルター P.170
クルーズコントロール P.74
　クルーズコントロール表示 P.113
車のお手入れ P.269
グローブボックス P.190

ケ

警告確認 P.114
警告灯 P.105
警告表示 P.124
警報ブザー音別一覧表（インテリジェントキー） P.220
けん引について P.228

コ

工具（格納場所） P.203
後席シート P.45
後席用パーソナルランプ P.188
航続可能距離
　航続可能距離警告 P.124
　航続可能距離表示 P.112
後側方車両検知警報(BSW) P.85
後退灯
　電球（バルブ）交換 P.257
　電球（バルブ）容量 P.281
コートハンガー P.197
故障警告灯（MIL） P.105
故障したときの対処方法 P.233
コンソールボックス P.191

サ

サービスデータ（車両仕様） P.281
サイドミラー（ドアミラー） P.54
サンシェード P.156
サンバイザー P.185
サンルーフ P.156
サンルーフ［正常に作動しないとき］ P.160

シ

シート
運転席オートドライビングポジションシート ... P.41
お手入れ ... P.274, P.275
後席シートの調節 ... P.45
前席エアコンディショニングシート ... P.183
前席シートの調節 ... P.37
チャイルドシート ... P.26
シートベルト
シートベルト警告灯 ... P.105
シートベルトのつけかた ... P.48
ダブルプリテンショナー機構 ... P.49
ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト ... P.49
室内照明 ... P.186
シフトロック
シフトロック解除ボタン ... P.226
シフトロックシステム ... P.226
車載工具 ... P.203
車線逸脱警報(LDW) ... P.94
車速感応式オート集中ドアロック ... P.144
ジャッキ ... P.203
ジャッキアップポイント ... P.208
車幅灯
電球（バルブ）交換 ... P.257
電球（バルブ）容量 ... P.281
車両情報 ... P.115
ジャンプスタートのしかた ... P.214
充電警告灯 ... P.105
衝撃感知式ドアロック解除システム ... P.144

ス

水温計 ... P.101
水温計の針が赤い目盛りに入ったとき ... P.224
スイッチ
VDC OFFスイッチ ... P.84
イルミネーションコントロールスイッチ ... P.103
エアコンスイッチ ... P.161, P.165
ECOモードスイッチ ... P.71
エンジンスイッチ ... P.57
サンルーフスイッチ ... P.158
ステアリングスイッチ（クルーズコントロール） ... P.75
ステアリングスイッチ（メーター） ... P.114
スポーツモードスイッチ ... P.62
前席エアコンディショニングシートスイッチ ... P.183
デフロスタースイッチ ... P.222
ドアミラースイッチ ... P.54
ドアロックスイッチ ... P.144
トランクオープナースイッチ ... P.150
TRIP RESETスイッチ ... P.102
パワーウインドースイッチ ... P.154
パワーウインドーロックスイッチ ... P.154
非常点滅表示灯スイッチ ... P.6
フォグランプスイッチ ... P.177
ヘッドランプレベライザースイッチ ... P.179
方向指示器スイッチ ... P.178
ライトスイッチ ... P.175
リクエストスイッチ ... P.141, P.149
リヤデフォッガースイッチ ... P.223
ワイパー·ウォッシャースイッチ ... P.181
ステアリング（ハンドル） ... P.52
ステアリングスイッチ（クルーズコントロール） ... P.75
ステアリングスイッチ（メーター） ... P.114
スピードメーター（速度計） ... P.101
スペアタイヤ
格納場所 ... P.203
スペアタイヤについて ... P.248
スペアタイヤの取り出しかた ... P.204
スポーツモードスイッチ ... P.62
スライド（シート前後位置調節） ... P.37

セ

制動灯
電球（バルブ）交換 ... P.257
電球（バルブ）容量 ... P.281
セキュリティーインジケーター ... P.110

設定（メーター）........ P.119
セレクトレバー
　セレクトレバーが動かない........ P.226
　セレクトレバーの操作........ P.59
洗車のしかた........ P.269
前席･後席ドア........ P.141
前席エアコンディショニングシート........ P.183
前席シート........ P.37
センターコンソールボックス........ P.191
前部霧灯（フォグランプ）........ P.177

ソ

走行距離、走行時間表示........ P.114
走行中にブレーキを踏んだとき、
ペダルが振動する（ABS）........ P.81
走行のしかた........ P.67
速度計（スピードメーター）........ P.101

タ

タイヤ........ P.244
　アルミロードホイールのお手入れ........ P.272
　空気圧........ P.244, P.282
　交換のしかた........ P.206
　スペアタイヤ........ P.203
　タイヤ･ホイールサイズ........ P.282
　タイヤ･ホイールを交換するとき........ P.245
　タイヤチェーンについて........ P.249
　タイヤの位置交換
　（ローテーション）........ P.247
　タイヤの点検項目........ P.244
　パンク........ P.202
タコメーター........ P.101
ダブルプリテンショナー機構........ P.49

チ

チャージランプ（充電警告灯）........ P.105
チャイルドシート........ P.26
　ISO FIX対応チャイルドセーフシート用
　アンカーについて........ P.29
　チャイルドシート適合表........ P.30
チャイルドセーフティドアロック........ P.147
駐車のしかた........ P.69
チルト･テレスコピックステアリング........ P.52
チルトアップ........ P.158

テ

停車のしかた........ P.69
ディスプレイ（アドバンスドドライブ
アシストディスプレイ）........ P.112
テールランプ
　電球（バルブ）交換........ P.257
　電球（バルブ）容量........ P.281
テールランプ表示灯........ P.110
デフロスタースイッチ........ P.222
電球（バルブ）交換........ P.257
電球（バルブ）容量........ P.281
点検･整備について........ P.236
電源ソケット........ P.196
点検値／交換油脂類........ P.277
電池交換........ P.140
電動格納式ドアミラー........ P.54
電動ガラスサンルーフ........ P.156
テンプメーター（水温計）........ P.101

ト

ドア........ P.141
ドア、トランク開き警告........ P.124
ドアが開かない........ P.212
ドアポケット........ P.195
ドアミラー........ P.54
ドアロックスイッチ........ P.144
ドアを室内から開けられないとき
（チャイルドセーフティドアロック）........ P.147
盗難防止装置（エンジンイモビライ
ザー）........ P.58
ドライビングポジションシート........ P.41
ドライブインジケーター........ P.124
ドライブコンピューター........ P.114

トランク
開かない……P.212
トランクオープナースイッチ……P.150
トランクオープン･リクエスト
スイッチ……P.149
トランクの開閉……P.149
トランクフック……P.198
トリップ切り替えスイッチ……P.102
トリップメーター（区間距離計）……P.102

ナ

内装のお手入れ……P.273
ナビゲーション（車両情報）……P.115
ナンバー灯
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281

ネ

燃費情報表示……P.114
燃料
燃料……P.152
燃料計……P.102
燃料残量警告灯……P.105
燃料タンク容量……P.152
燃料補給口……P.152

ハ

パーキングブレーキ……P.63
パーキングブレーキ解除警告……P.124
ハイビーム
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
挟み込み防止機構
サンルーフ……P.159
パワーウインドー……P.155
発煙筒の使いかた……P.232
バックミラー（ルームミラー）……P.53
バッテリーがあがったときは……P.214
バッテリーセーバー
ヘッドランプ……P.175
マップランプ……P.186
リヤパーソナルランプ……P.188
パッド摩耗警報……P.220
バニティミラー……P.185
バルブ（電球）交換……P.257
バルブ（電球）容量……P.281
パワーウインドー……P.154
パワーウインドーが正常に
作動しないとき……P.155
パワーシート……P.37
パワーステアリング警告灯……P.105
パンク……P.202
番号灯
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
半ドア警告……P.124
ハンドル……P.52

ヒ

ヒーター付ドアミラー……P.54
非常点滅表示灯
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
非常点滅表示灯スイッチ……P.6
尾灯
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
ヒューズ……P.253
表示灯……P.110

フ

VDC……P.82
VDC OFF表示灯……P.110
VDC警告灯……P.105
ブースターケーブルのつなぎかた……P.214
フードの開閉……P.237

フォグランプ
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
フォグランプ表示灯……P.110
フォグランプスイッチ……P.177
吹き出し口……P.169
ブザー（警報音）が鳴ったときは……P.220
フューエルフィラーリッド（燃料補給口）……P.152
フューエルメーター（燃料計）……P.102
ブレーキ警告灯……P.105
ブレーキパッド摩耗警報……P.220
フロアカーペット……P.199
フロントシート……P.37

ヘ

平均燃費表示、平均車速表示……P.114
ヘッドランプ
オートライトシステム……P.176
キセノンヘッドランプ……P.180
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
ヘッドランプ上向き表示灯……P.110
ヘッドランプスイッチ……P.175
ヘッドランプレベライザースイッチ……P.179
ヘッドレスト
後席シート……P.45
前席シート……P.37

ホ

ホイールサイズ……P.282
ホイールナットレンチ……P.203
防眩式ルームミラー……P.53
方向指示器
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
方向指示器スイッチ……P.178
方向指示表示灯
方向指示表示灯……P.110
防犯装置
エンジンイモビライザー（盗難防止装置）……P.58
セキュリティーインジケーター……P.110
ホーム（車両情報）……P.115
ホーン……P.52
ポジションインジケーター……P.103
ポジションランプ
電球（バルブ）交換……P.257
電球（バルブ）容量……P.281
ボトルホルダー……P.195
ボンネット（フード）……P.237

マ

マスターウォーニング……P.105
マップランプ……P.186
窓ガラスのくもりの取りかた……P.222
マニュアルシート……P.37

ミ

ミラー
ドアミラースイッチ……P.54
バニティミラー……P.185
ルームミラー……P.53

メ

メーター
アドバンスドドライブアシストディスプレイ……P.112
警告灯……P.105
警告表示……P.124
ドライブインジケーター……P.124
ドライブコンピューター……P.114
表示灯……P.110
メーターの見かた……P.100
メンテナンスデータ（サービスデータ）……P.277

ユ

雪道やぬかるみからの脱出のしかた............ P.227
雪道を走行するとき...................................... P.241

ラ

ライトスイッチ... P.175
ランプ（室内照明）
　マップランプ.. P.186
　リヤパーソナルランプ................................ P.188
ランプが点灯しないとき（バルブの交換）... P.257
ランプ消し忘れ警告...................................... P.124

リ

リクエストスイッチ
　ドア... P.141
　トランク... P.149
リクライニング（背もたれの角度調節）........ P.37
リフター（シートの上下調節）........................ P.37
リモートコントロールエントリー機能......... P.143
リモコン.. P.143, P.150
リヤシート.. P.45
リヤデッフォッガースイッチ........................ P.223
リヤパーソナルランプ.................................... P.188
リヤビューカメラ.. P.93

ル

ルームミラー.. P.53
ルームランプ.. P.186

レ

冷却水
　寒冷時の取り扱い.. P.241
　冷却水（規定量）.. P.278
レバー（セレクトレバー）................................ P.59

ロ

ロードホイール
　お手入れ... P.272
　交換... P.245
　サイズ... P.282
ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト.. P.49
ロービーム
　電球（バルブ）交換.................................... P.257
　電球（バルブ）容量.................................... P.281
路上で故障したときは.................................. P.233

ワ

ワイパー
　ワイパーゴムの交換.................................... P.252
　ワイパースイッチ.. P.181
　ワイパーブレードの交換............................ P.251
ワイパー･ウォッシャースイッチ.................. P.181
ワックスをかけるとき.................................... P.271

日産車の環境保全への取組みを詳細に紹介した「車種別環境情報」をインターネットでご覧いただけます。

（http://www.nissan.co.jp/INFO/E_NOTE/）

日産自動車へのご相談は下記にお願いいたします。

お客さま相談室

0120-315-232

受付時間：**9:00～17:00**

お問い合わせ・ご相談内容につきましては、お客さま対応や品質向上のために記録し活用させていただいております。

なお、内容によっては、当社の販売会社等から回答させていただくことが適切と判断した場合には、必要な範囲で情報を開示し、当該販売会社等からお客さまにご連絡をとらせていただく場合もございますので、あらかじめご了承ください。

当社における個人情報の取り扱いの詳細については、日産自動車ホームページ（http://www.nissan.co.jp）にて掲載しています。

日産自動車株式会社

〒220-8686 神奈川県横浜市西区高島一丁目1番1号